

©創通エージェンシー・サンライズ



サンライズ  
007167

# FA-010S GUNDAM/AMMO MOBILE SUIT

## FA-010S ARMED MULTIPURPOSE PROTOTYPE



BANDAI



MOBILE SUIT  
FA-010S

# FULL ARMOR ZZ GUNDAM

A.E.U.G. MULTIPURPOSE PROTOTYPE  
TRANSFORMABLE MOBILE SUIT



BANDAI 2000 MADE IN JAPAN

反地球連邦政府組織（エゥーゴ）  
可変分離型試作モビルスーツ  
FA-010S「フルアーマーダブルゼータガンダム」  
1/100 スケール マスターグレードモデル

Scanned by DaLong.net



# FA-010S FULL ZZ GUNDAM

U.C.0087年、エゥーゴが推進した「Z(ゼータ)プロジェクト」によって誕生したZZ(ダブルゼータ)ガンダムは、強烈の機体と呼べるスペックを達成したものの、問題が皆無だったわけではない。もともと、当時のMSの開発状況は混沌としており、多種多様なコンセプトが乱立していた。そのため、MSの開発とは、本来なら相反する要素を比較検討してすり合わせ、その「落し所」を探索する作業となっていたのである。

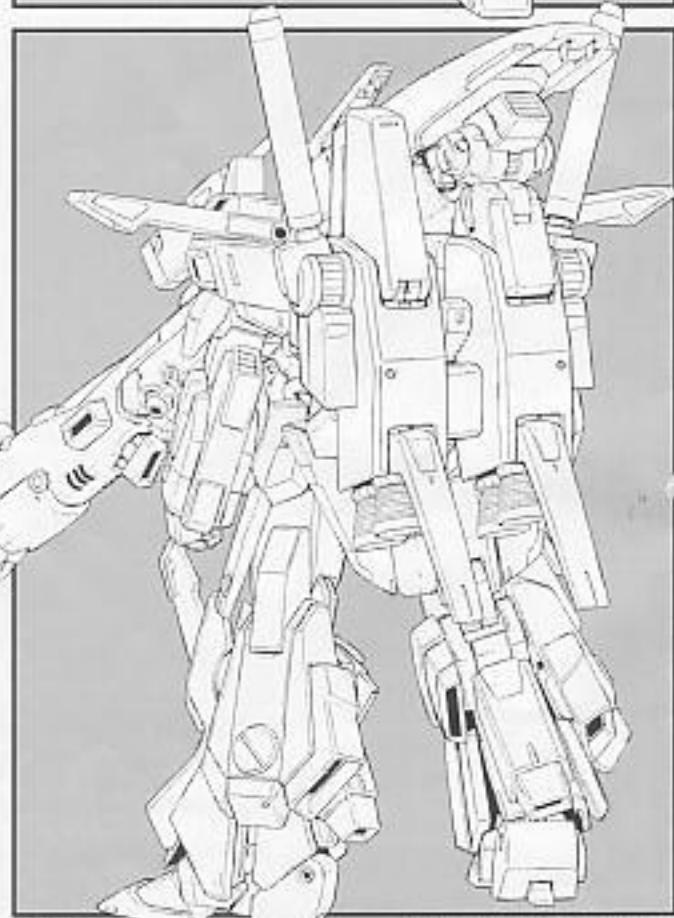
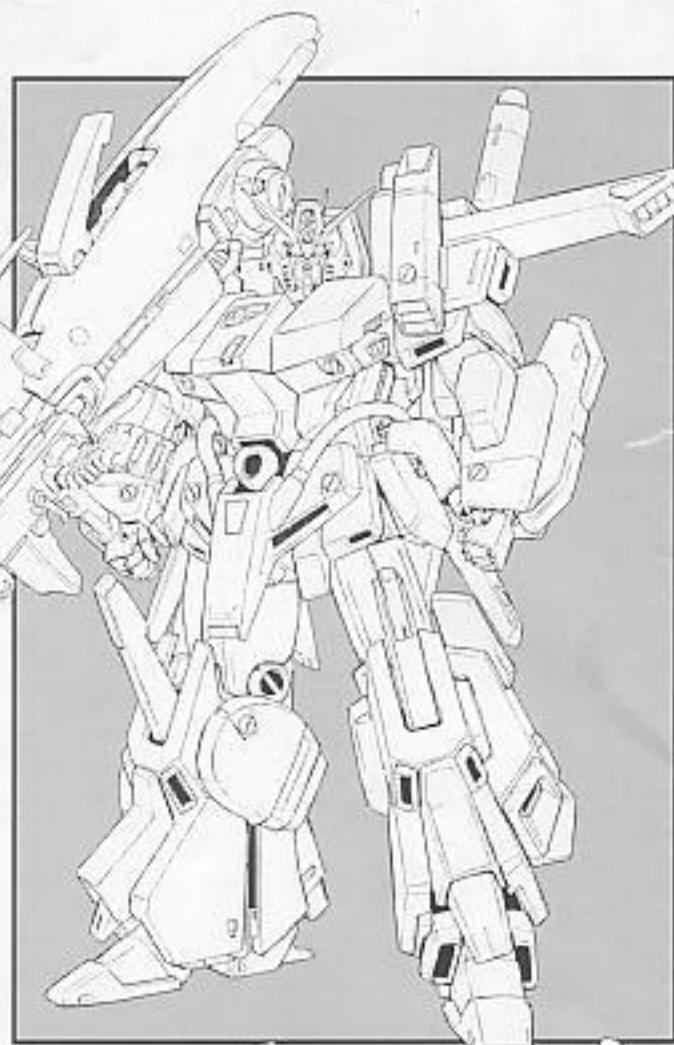
ZZガンダムは、その最先端を疾走していたMSである。性能の要求値はインフレーションを起こし、多機能化や武装の強化はもとより、ジェネレーターの高出力化に伴って、MSの機体そのものは恐ろしく巨大化していく。ZZガンダムは、それらのファクターを高いレベルで、しかし、危ういバランスで成立させていた機体でもあったのである。当時開発クラスの強力なMSとして完成したもの、2機のコア・ファイターは、MS形態時に余剰バーツとなる上、ドッキングの際の接合面が構造的に脆弱だった。当時の工場にとって、分離変形性能による軽快の取扱説明書は確かに有利ではあったが、MG単体としての機動を考えた場合、ZZガンダムはシステムとして複雑になり、また、最大出力での稼働時間も短く、整備性も劣悪だった。それらの問題を解決するオプションとしての追加装甲システムである。これはZZガンダムの持つ「MSとしてのボテンシャル」を最大限に發揮させるための「有る得べき」スタイルでもあったのである。

ZZガンダムの「FA(フルアーマー)化」は開発当初から設計に盛り込まれていた。なぜならこの機体は「RX-78ガンダムの復活」をコンセプトとしており、システムとしての「ガンダム」をリファインするという目的も持っていたからである。単純によるガンダム(Gメカなどのオプション兵器を含む)の再現を指標としていたZZガンダムにとって、いわゆる「フルアーマーオペレーション」も当然、再現すべきファクターだったのである。

ガンダムのFA化は、FSWと呼ばれるコードネームに基づく一年戦争における諸元の構成計画だったが、装甲や武装の追加による機能向上は、一年戦争以降のMS開発者にとって既に至極スタンダードな手法となっていた。機体そのもののブロック化によって、ZZガンダムは当初から非常にシステムティックな構造が採用されていたため、運用方針による仕様変更なども当初から設計に盛り込まれており、非直感的バージョンも検討されていたのである。と言うより、単機能のMSとしての運用に限定すれば、ある意味でFA化された状態こそがZZガンダムの完成形だったとも言えるだろう。その完成形のみを指標とし、変形機構や頭部ハイメガキャノンなどをオミットしたFAZZ(ファツ)と呼ばれる機体も開発され、数機が同時期に実戦投入されている。

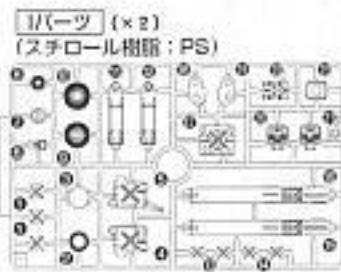
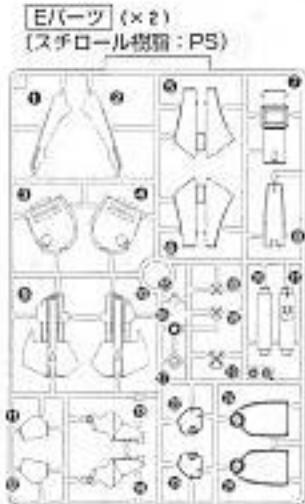
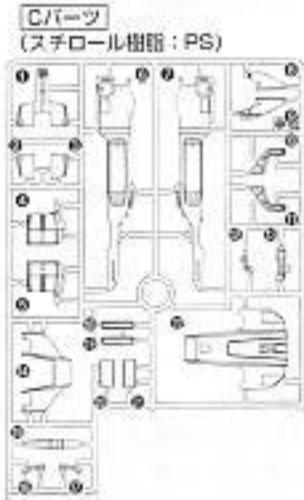
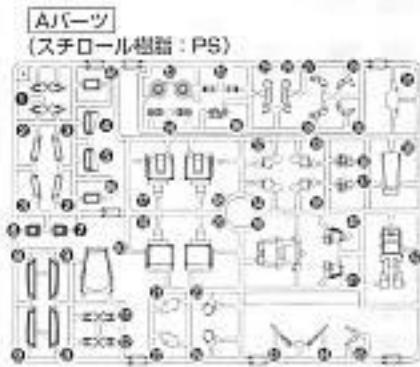
ZZガンダムに供給された追加装甲および武装はFAZZの運用結果からのフィードバックを受け、さらに改良されたプランに基づいて開発された。その際、ZZガンダム本体の改良も懸念となり、コードナンバーも便宜的にMSZ-010Sへと変更されている。これは言わば空間戦闘への特化を含む改修で、その変更箇所は、既存の機体なら改修に数日を要する規模のものだったのだが、ZZガンダムにおいては基本的に各部のブロックを換装するのみであった。実際、ネル・アーガマで行われたフルアーマーZZガンダムへの改修は、メンテナンスと並行で数時間の内に完了していたと言われている。これはハマーンに謀反したグレミー軍が捕獲するクイン・マンサとの決戦仕様であるとされているが、それまでの戦闘で消耗した本体のオーバーホールも兼ねていたらしい。

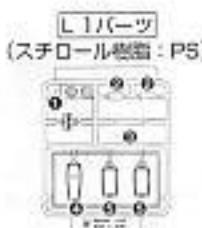
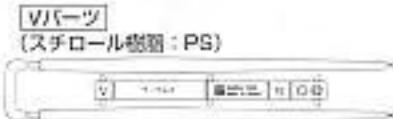
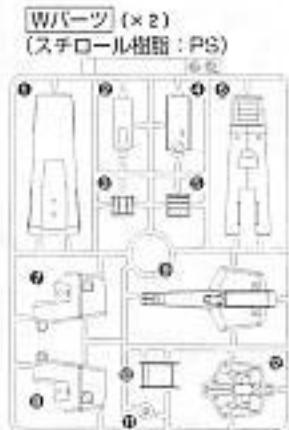
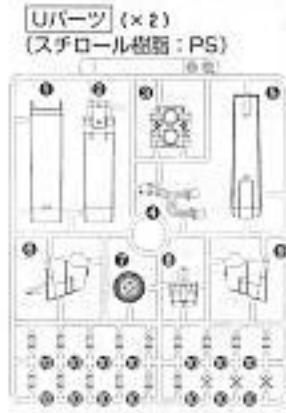
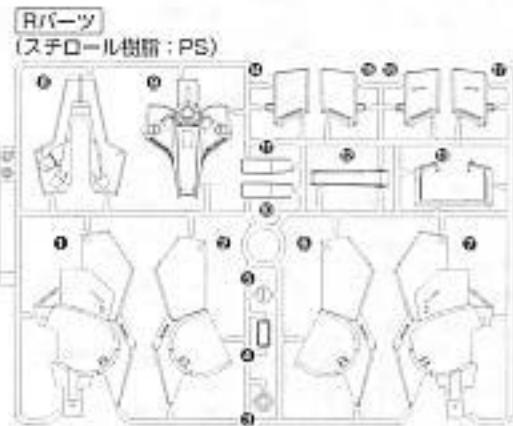
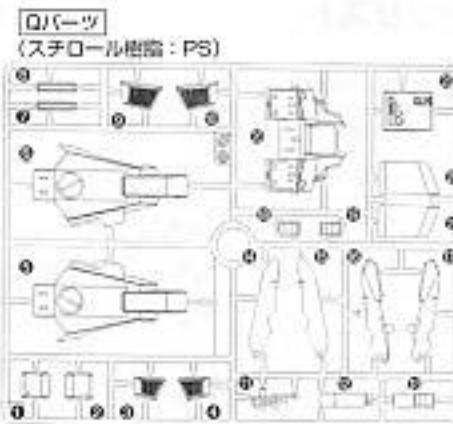
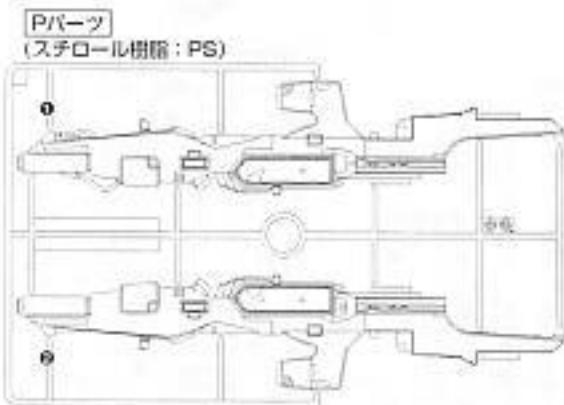
FA化に伴って本体そのものに施された改修は、バックパックエンジンの増加やミサイルポッドの大型化に加え、スカートアーマーの追加、換装と、足部クロスの交換などである。これらの仕様変更是対クイン・マンサ戦においてのみ採用され、ハマーン・カーンとの決戦時には「ほとんど」本来の仕様に復元されていたようだ。



Conceptual illustration: Hajime Katoki

## パーツリスト





カラーシール.....1枚  
マーキングシール.....1枚  
ガンダムデカール.....1枚  
ビス.....4個  
ワッシャ.....4個  
ビニールチューブ.....1本  
メッシュパイプ.....1本  
リード線.....1本  
リボンケーブル.....1本

（お買上げのお客様へ）部品をこわしたり、なくした時は、「部品注文カード」に必要な部品の記号／番号／数量をはっきり書いて切り取り、郵便局で定額小為替をお買い求めいただき、封書（裏面に必ずお客様のお名前、年齢、ご住所を明記してください。）にて下記までお申し込みください。代金は、料金表通りです。お替証書は無記入（白紙）で同封してください。なお、部品の形状・重量で郵送料に過不足が生じるときがあります。部品発送の際に表記額を超える時は不足分を請求、表記額以下の時には残額をお返しいたします。もし部品に不良品がございましたら、その部品を切り取り、商品名を書いて、下記まで封書にてお送りください。良品と交換させていただきます。

■申し込み先 (株)バンダイ静岡相談センター  
〒424-8735 静岡県清水市西久保305 TELO543-65-5315

（料金表）●部品代は1個の料金です。

部品番号	B@・日@	P@・P@	V	その他の部品
部品代	各100円	各100円	各100円	各40円
郵送料	140円	160円	140円	120円

For Japanese use only.

部品注文カード 77167-6000  
1/100SCALE MGシリーズ  
FA-010S フルアーマーダブルゼータガンダム

必要な部品の記号・番号・数量をかく

●注文された理由(○で取む)(こわしたなくした)

部品の注文は「定額小為替」でお願いいたします。

'00.08

# FA-010S FULL ARMOR ZZ GUNDAM

Parts name of  
FULL ARMOR  
ZZ GUNDAM

Parts List

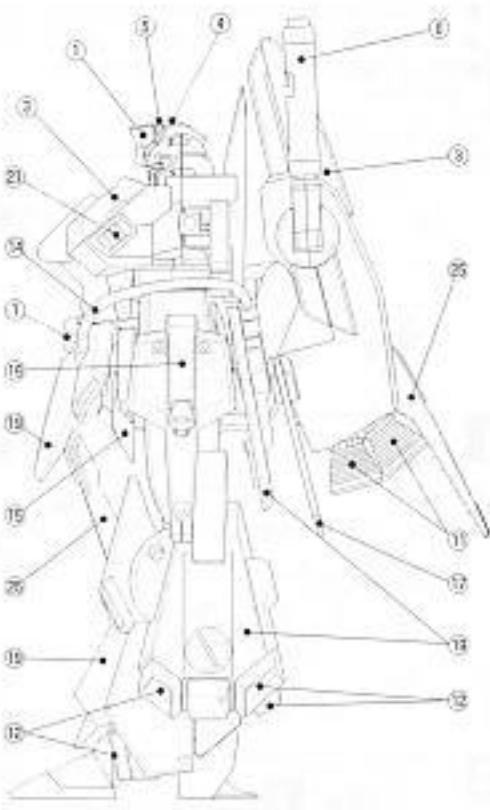
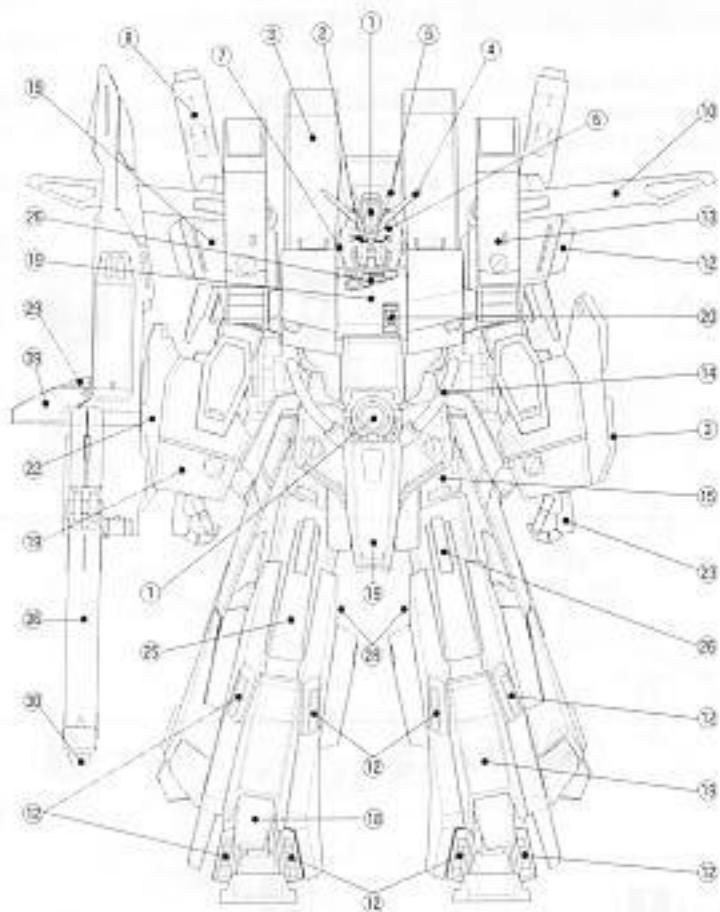
Body &  
COCKPIT

Head

Arm Unit

Leg &  
Weapons

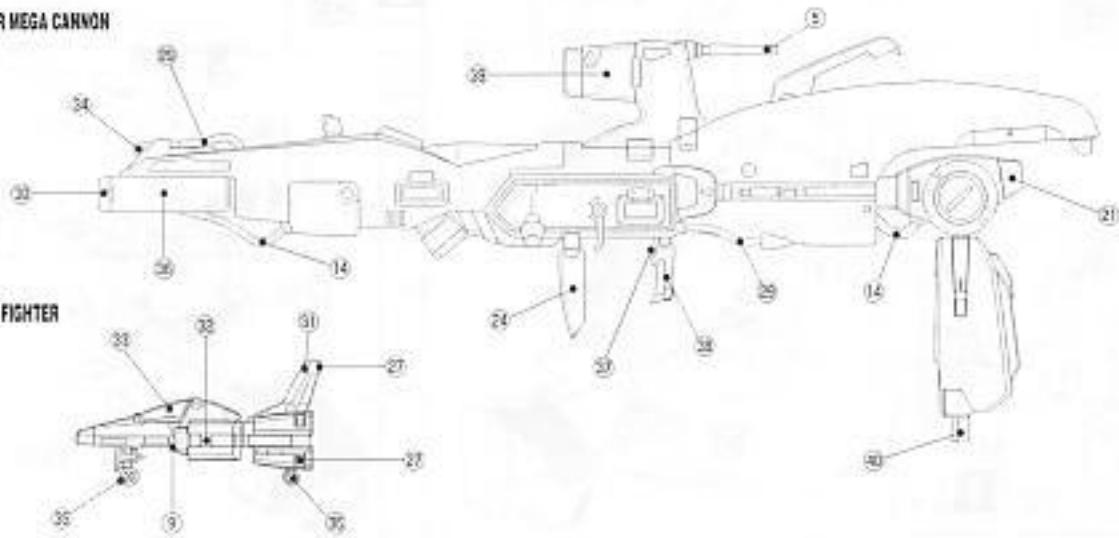
Final Assembly



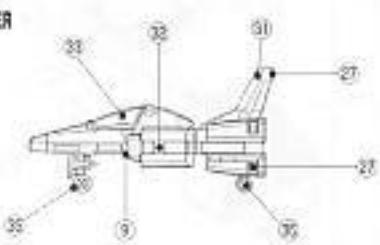
- |                |                 |                  |                |             |
|----------------|-----------------|------------------|----------------|-------------|
| ①ハイメガキャノン      | ⑨インターク／ダクト      | ⑯リアウイングアーマー      | ㉑スタビライザー       | ㉓コクピット      |
| ②デュアルカメラ／センサー  | ⑩シルダースラスター／アーマー | ㉒レガースアーマー        | ㉔マルチセンサーアレイ    | ㉕ナロウレンジセンサー |
| ③ミサイルポッド       | ㉑メインスラスター       | ㉕エディショナルアーマー     | ㉖サブマスバノズル      | ㉗ランディングギア   |
| ④フォールディングアンテナ  | ㉒サブスラスター        | ㉘フィールドジェネレーター    | ㉙ニージョイントアーマー   | ㉚バレル        |
| ⑤マルチロッドアンテナ    | ㉓スフレーミサイルランチャー  | ㉚ダクト             | ㉛データリンクケーブル    | ㉜トリガー       |
| ⑥60mmバレルカン     | ㉔エネルギー／サプライケーブル | ㉜ライフルコネクター       | ㉝マズル           | ㉞グリップ       |
| ⑦90mmバレルカン     | ㉕フロントアーマー       | ㉘マニピュレーター        | ㉟パーティカルスタビライザー | ㉟オプチカルセンサー  |
| ⑧ハイビーム／ビームキャノン | ㉙サイドウイングアーマー    | ㉚フォールディンググリップガード | ㉛マイクロミサイルランチャー | ㉛エネルギー／ミナル  |

注) この機体は、U.C.0089年1月16から17日にかけて行われた戦闘中、対クイン・マンサ戦において運用された  
“フルアーマーZZガンダム”と呼ばれるバージョンにオプションを追加したものです。

## HYPER MEGA CANNON



## CORE FIGHTER



## △ 注意

## 必ずお読みください

- この商品の対象年齢は15才以上です。(脱いだ部品がありますので、安全上15才未満には適しません。)
- 小さな部品があります。口の中には絶対に入れないでください。窒息などの危険があります。
- ビニール袋を頭から被ったり、顔を覆ったりしないでください。窒息するおそれがあります。
- 小さなお子様のいるご家庭では、お子様の手の届かないところへ保管し、お子様には絶対に与えないでください。

※このキットの組み立てには+(プラス)ドライバーを使いますので別にご用意ください。

## 〈組み立てる時の注意〉

- 組み立てる前に説明書をよく読みましょう。
- 部品は番号を確かめ、ニッパーなどできれいに切り取りましょう。切り取った後のクスは捨ててください。
- 部品の加工の際の汚物、工具、塗料、接着剤などのご使用にあたっては、それぞれの取扱説明書をよく読んで正しく使用してください。
- 部品の中には、やむをえず、とがったところがあるものもありますが、気をつけて組み立ててください。
- 塗装にはより安全な「水性漆料」のご使用をおすすめします。



・描画をするところの線



・シールの書写



・ネジ穴の書き



・反対側に取り付ける  
バージ



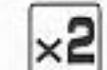
・両側に同じマーキーを  
貼り付ける



・向きには直して  
取り付ける



・切り取るところ



・部品を複数の個数  
作ります



・先に組み立てます



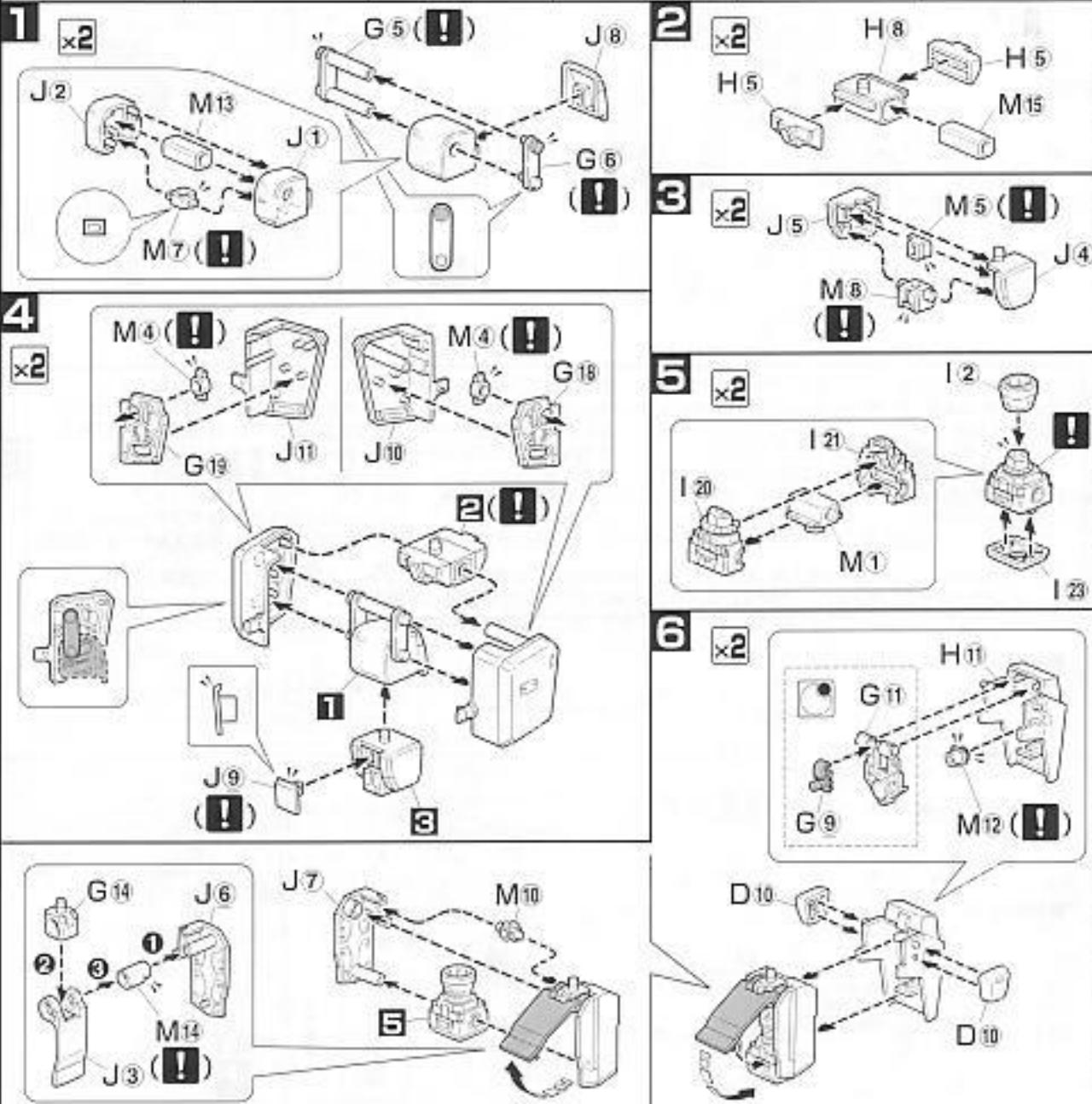
・後に組み立てます



・首筋に曲げさせて  
回転させます



・どちらかを選んで  
取り付ける



## HYPYER MEGA CANNON

いわゆる強化型ZZガンダムの主武装として考えられていたもので、当時の標準的な戦闘艦艇の主砲並みの威力を持つ。Gフォートレス形態時にも出力の制限はあるものの使用可能であり、追加装甲とのマッチングも充分考えられていた。

グリップス戦争の期間中、MSの携行武装は飛躍的に威力を増していった。その代表的なものが、ZZガンダムなどが運用したハイパー・メガ・ランチャーなどに代表される大型火器である。このハイパー・メガ・キャノンは、頭部ハイメガキャノンの約60%増しの出力をもち、当時のネオ・ジオンの重武装MSの火力に十二

分に拮抗し得る兵器であった。しかも、数秒のインターバルで連射も可能であったという。

FA-010SフルアーマーZZガンダムのオプションとして採用されたハイパー・メガ・キャノンは、FA-010B(通常ファック)の主武装であり、その威力は折り紙つきであつた(ファックの場合、頭部と頭部のハイメガキャノンはダメだったのだから当然とも言えるが)。しかし、アーガマ(後にはネル・アーガマに)配備された機体が実戦においてこの武装を使用したかどうかは定かではない。

## BODY ARMOR

MSZ-010の最大の特徴であり、かつ最大の

ウイークポイントだったのがドッキング部

位の構造的脆弱さだった。ボディアーマーは、それを改善するのみならず、更に機能強化を図るためにユニットでもあった。

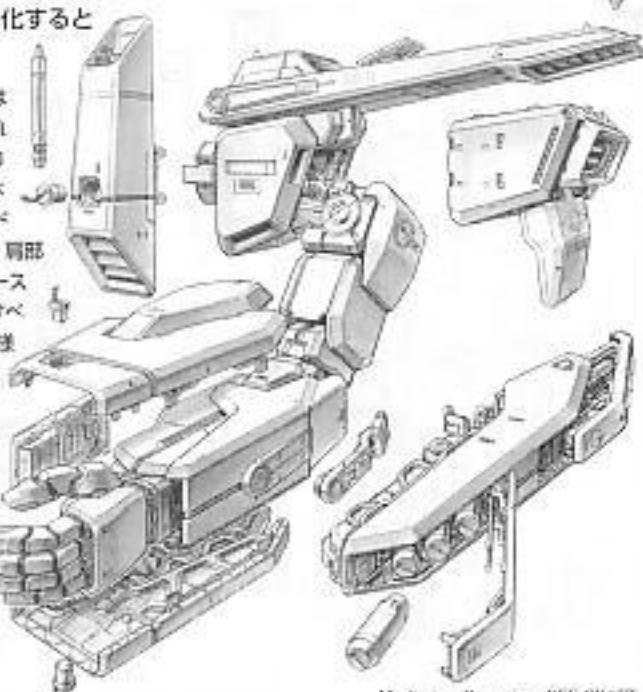
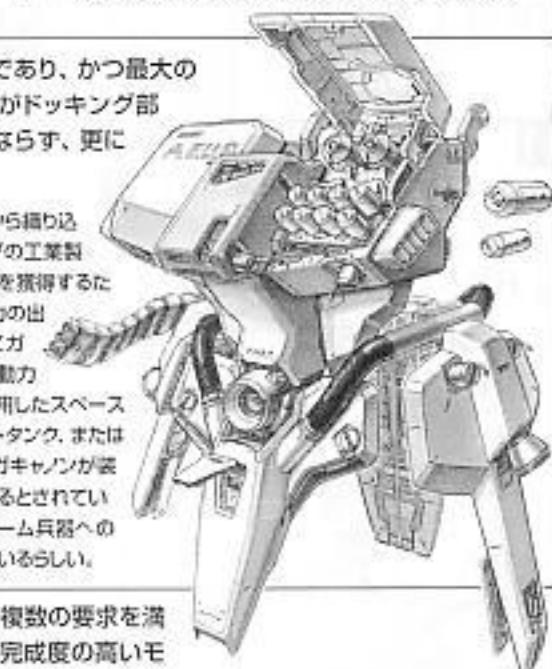
ZZガンダムのボディユニットが構造的に脆弱であることは、この機体の開発当初から織り込み添みであった。それぞれの最終装甲は十分に強力ではあったが、ドッカブルタイプの工業製品の接合面が消耗しやすいのは自明のことである。ZZガンダムは、戦術的な広範囲を獲得するため、敢えてこの構造を採用していた。しかし、ネオ・ジオン製のMSに搭載される火力の出力向上のベースは豪傑じく、具体的な対策を講じる必要が生まれたのである。ZZガンダムのFA化において重視されたのは、追加装甲による乾重量の増加があつても機動力を損なわないことであった。装甲そのものは基本的にガンドリウムコンポジットを多用したスペースド・アーマーとなっており、その空間そのものマイクロミサイルホッドやプロペラントタンク、またはスラスターなどに有効利用されている。腹部には本体の頭部とほぼ同出力のハイメガキャノンが装備されているが、威力も消耗度もほぼ同等で、一度の戦闘で一回の使用が限界であるとされている。また、脚部には左右で計20発のマイクロミサイルとセンサーおよびF、高出力ビーム兵器への対策として、短時間であれば胸部前面にフィールドを展開することも可能となっているらしい。

## ARM ARMOR

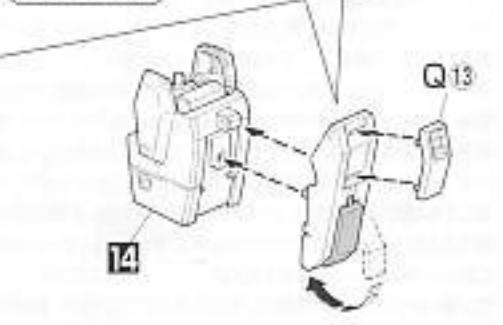
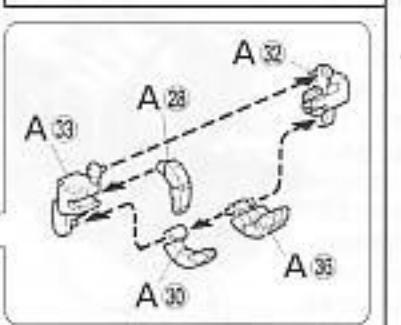
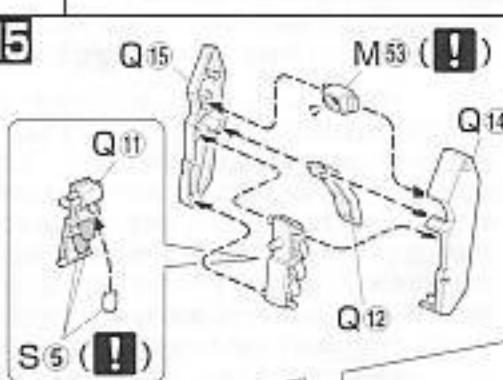
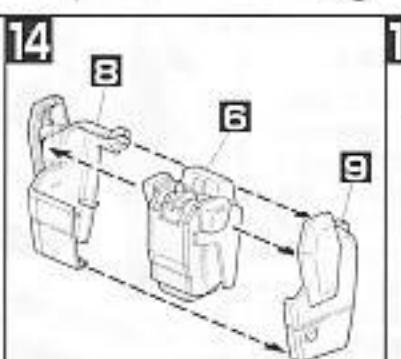
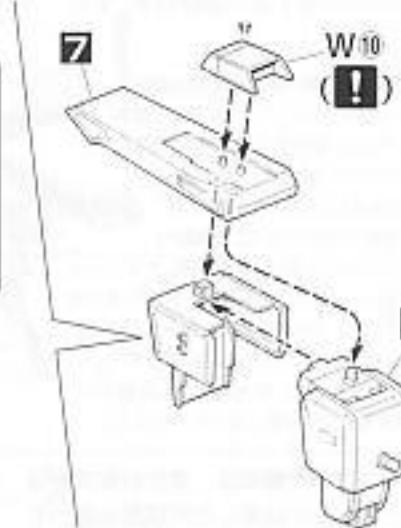
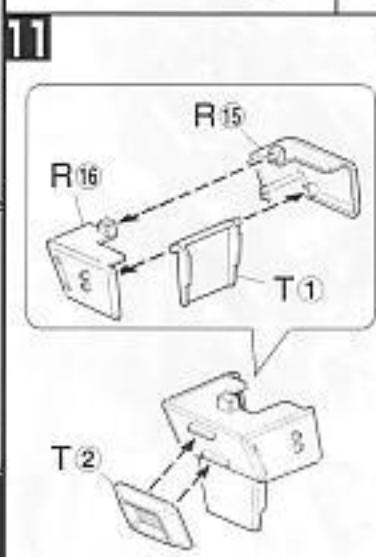
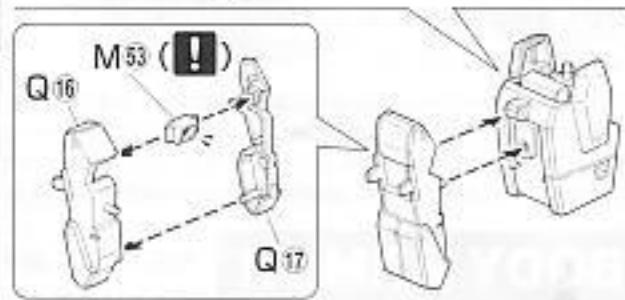
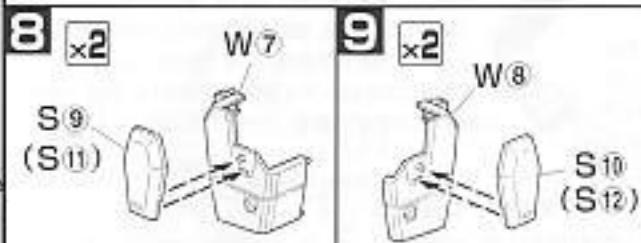
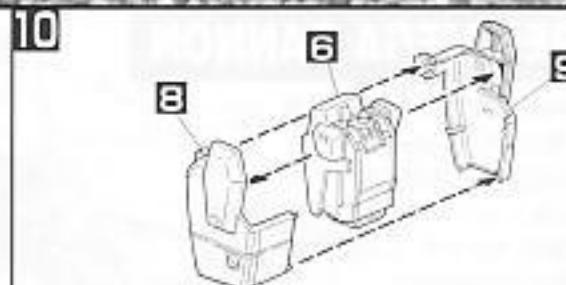
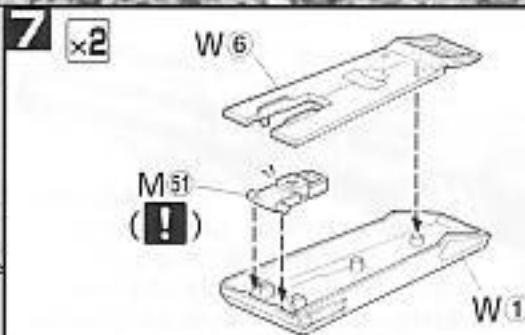
MSZ-010の胸部と脚部は、複数の要求を満

たすための試行錯誤が結実した完成度の高いモジュールであると同時にネックでもあった。可変MSをFA化するという、本末転倒な方針がもっとも顕著な部位でもある。

MSZ-010のFA化に際し、胸部は火器のフラットホームとして、脚部は多くの空間戦闘用MSと同様に巨大なベクタード・ノズルとして単機能化されることとなった。脚部の増加装甲は構造的にスラスターとプロペラントのコンフォーマブルタンクを内蔵したスペースドアーマーとして固定され、本体の可動部分を保護するようにデザインされている。胸部はウイング・シールドが頭部ごとミサイルホッドやダブルビーム・ライフルのジョイントと換装され、脚部にもミサイルホッドと追加スラスターが装備されている。さらに、ショルダースラスター・アーマーそのものがさらに高出力なものに交換されている。特筆すべきなのは、これらの装備を追加したにも関わらず、胸部も脚部も通常と同様のスペックを発揮していることである。つまり、慣性重量が増加している分、各部のレスポンスは低下してしまうが、フルアーマーZZガンダムの運動性は、いわゆるノーマル状態とほとんど変化がなかつたと言われている。これは、単にZZガンダムの性能そのものの問題ではなく、何らかの脚部デバイスが搭載されたためではないかと言われており、準サイコミュ装置のひとつである“バイオセンサー”が最も有力視されている。そのデバイスによって機体のレスポンスが向上することはMSZ-006Zガンダムでも確認されており、その後継機である本機にも同様のデバイスが機体各所に分散配置されているらしい。それが、ハマーとの最終決戦において発動し、ハイメガキャノンのリミッターのオフラインやシステムダウン後のドッキングを可能にしたとも言われているが、詳細は不明である。



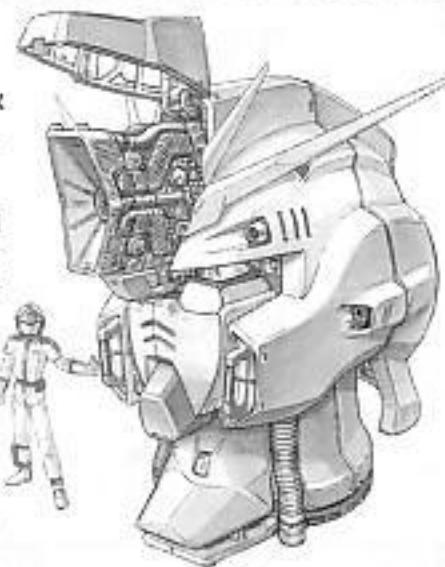
Mechanism illustration: BEE-CRAFT



# HEAD UNIT

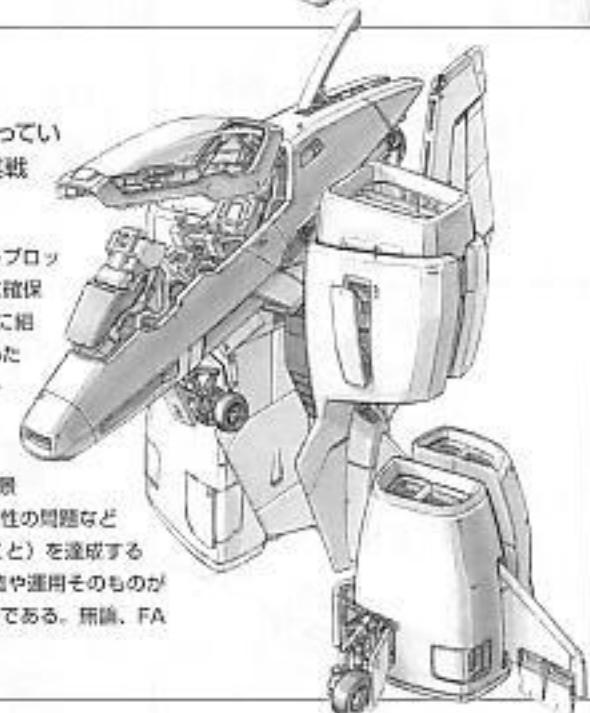
MSZ-010の特徴のひとつは頭部構造に集約されている。“頭部ハイメガキャノン”は、通常ならセンサーアレイとして機能する部位に装備され、MSが最終装甲内に内装する武装としては、最大級の威力を持つ。

MSZ-010の頭部に装備されるハイメガキャノンは、MSがノンオプションで装備する武装としては当時最強の武装であった。このデバイスは、機体に積載されたジェネレーターをオーバーロード寸前まで稼働させることで発生するエネルギーの全てを吸収させて射出するZZガンダムの最終兵器であり、この装置を最大出力で使用すると、機体そのものがほぼ稼働不能の状況に陥ってしまうと言われている。この装置を内蔵するため、この機体の頭部構造は前後に分断されており、顎面側にセンサー類が集約され、両部から後頭部を経て頭頂部に至る部位には、バックパックからの直結回路や大容量のエネルギー制御デバイスが高密度に実装されている。これらのパーツは損耗率が高く、アップデートも頻繁に行われたため、頭部パルカン砲などは度々設計変更を受け、時期によって口径や装弾数、果ては実装部位さえ異なってしまうという事態を招いていたようだ。



# CORE FIGHTER

MSZ-010の腹部モジュールは“コア・ブロック・システム”となっている。この機構には、搭乗者の生還性を向上させるのと同時に、実戦投入による実戦データの回収が可能というメリットがあった。

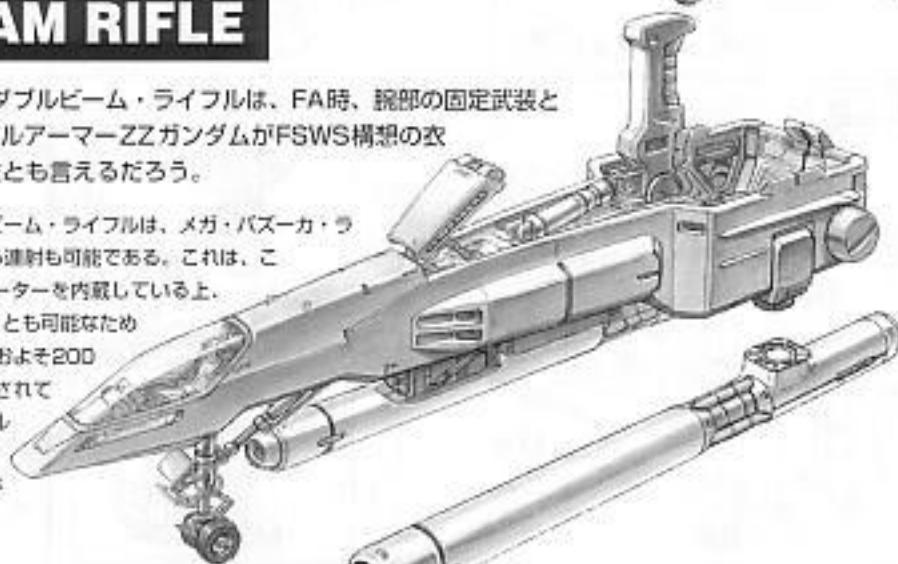


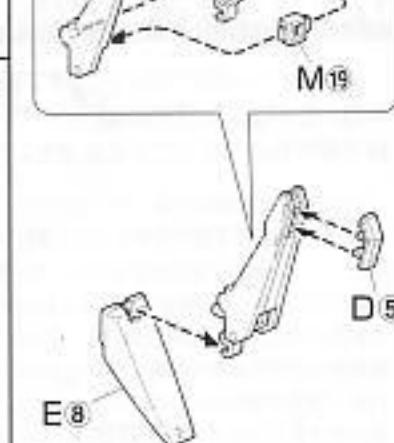
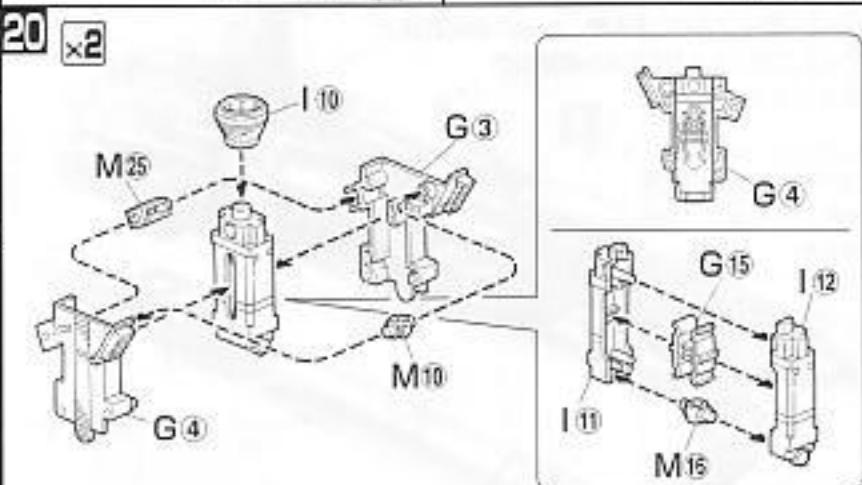
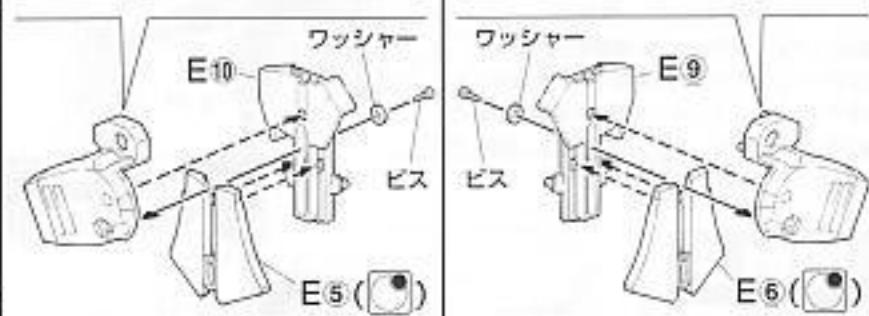
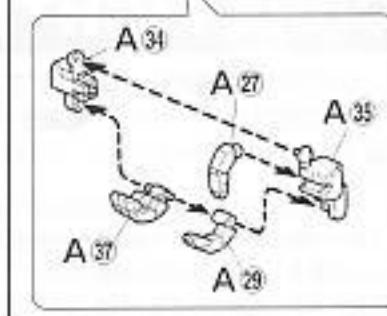
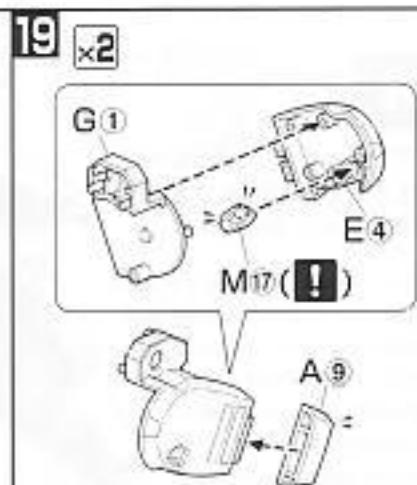
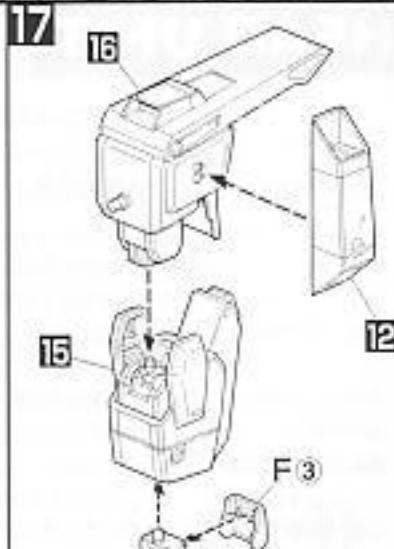
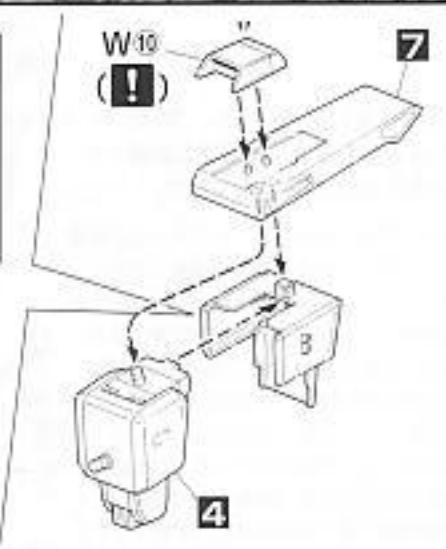
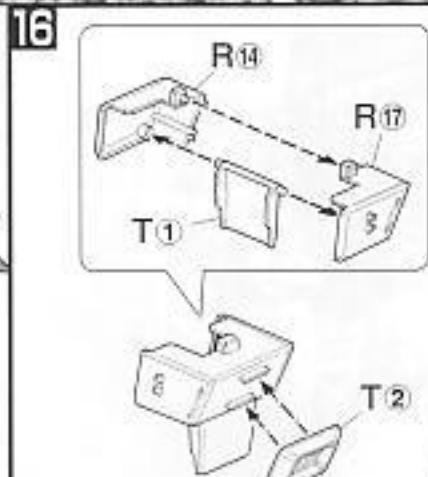
コア・ファイターはMSZ-010の中核制御モジュールである。コクピットブロック自体が球形コクピットとほぼ同等の機能を持ち、単体での生存性も十分に確保してある上、通常なら頭部に装備されるコ・プロセッサーもメインフレームに組み込まれている（このユニットは“バイオセンサー”的機能を前提としていたため、当時最高水準の演算能力を持っていたと言われている）。また、機体各所に分散配置されたジェネレーターは、それぞれが小型高性能の熱核ジェット／ロケットエンジンでもあり、単基でも標準的なMSを充分に稼働可能だと言われている。“ZZガンダム”がコア・ブロック・システムを採用した背景には、開発期間の短縮や当時の標準的な球形脱出コクピットブロックの信頼性の問題などがあったものの、あくまで初期の構想（十分なジェネレーター出力を得ること）を達成するための首尾一貫としてあった。ところがこの機体は、そのことによって構造や運用そのものが更に機能発展を遂げ、「Zプロジェクト」における“最強のMS”となつたのである。無論、FA時もその機能のほとんどが失われていないことは言うまでもない。

# DOUBLE BEAM RIFLE

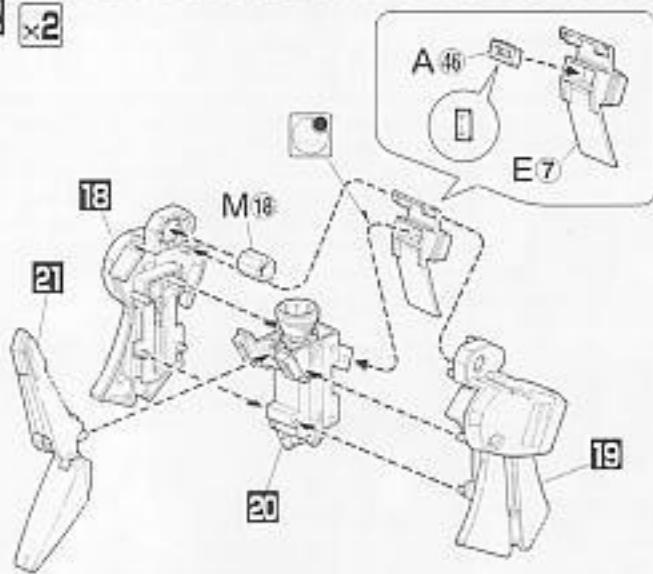
ZZガンダムの主武装であるダブルビーム・ライフルは、FA時、腕部の固定武装となる。このコンセプト自体、フルアーマーZZガンダムがFSWS構想の衣鉢を継ぐものであることを証明とも言えるだろう。

MSZ-010の主武装であるダブルビーム・ライフルは、メガ・バズーカ・ランチャーに匹敵する威力を持ちながら連射も可能である。これは、このモジュール自体が複数のジェネレーターを内蔵している上、本体からのエネルギー供給を受けることも可能なためである。ただし砲身の消耗が激しく、およそ200発程度の使用で交換が必要になるとされている。FA化に際して、このモジュールはコネクタージョイントを介して腕部の固定武装となり、さらなる連射が可能となっている。

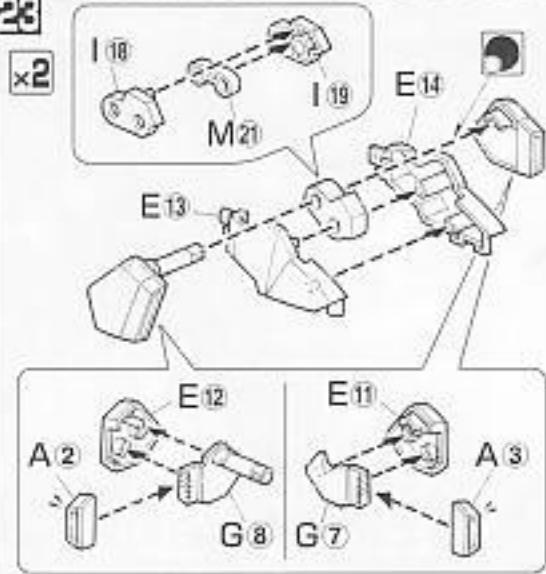




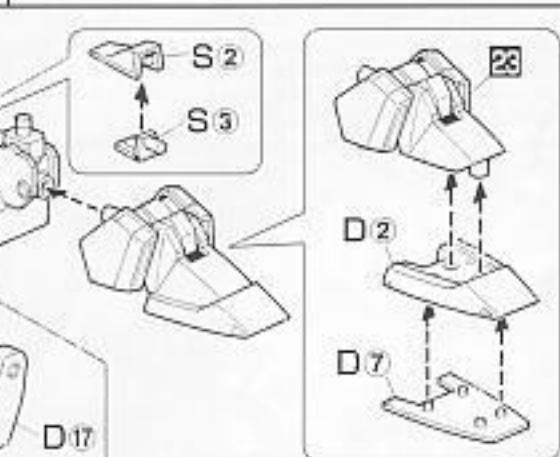
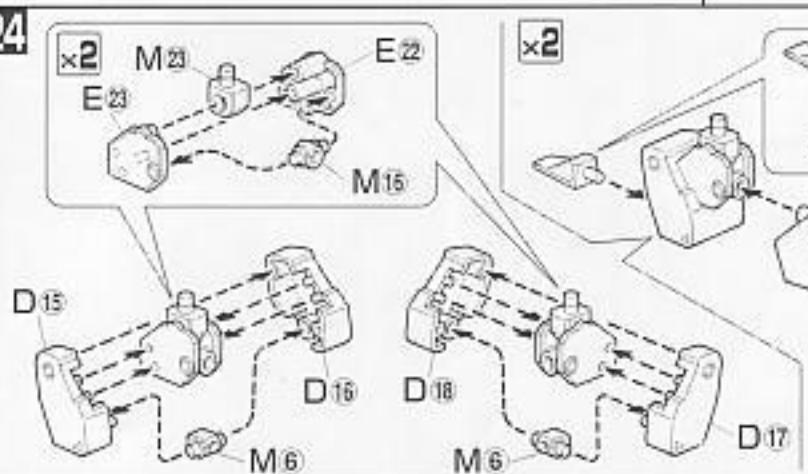
22 x2



23 x2



24



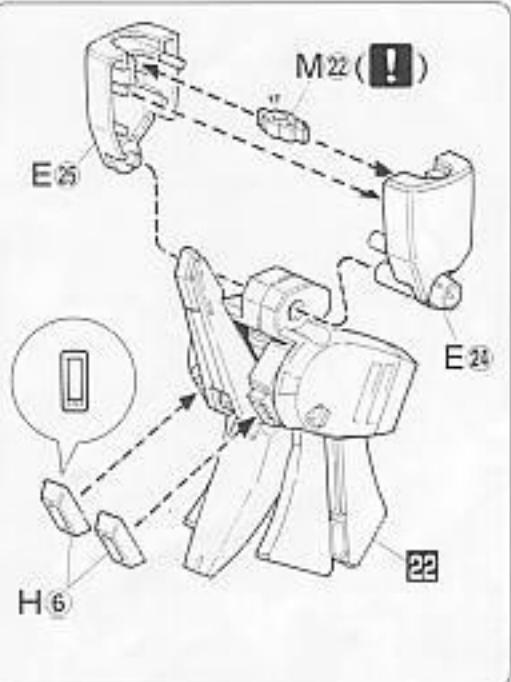
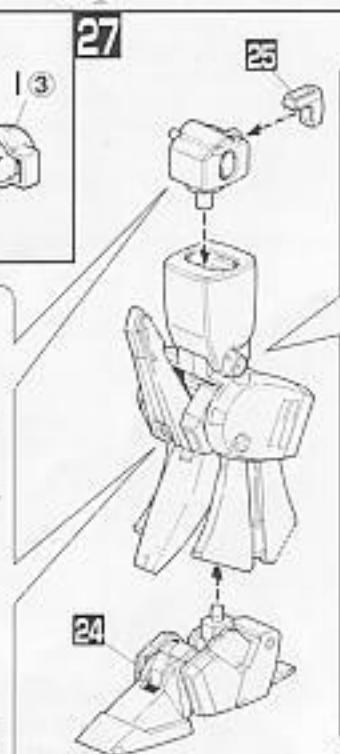
25 x2



26 x2



27



# FIGHT'S ON

# Documentary Photographs

## HYPER MEGA CANNON

宇宙世紀0089年初期、ラビアンローズではZプロジェクトによって開発されたZZガンダムのトライアルが行われていた。変形機構に問題を抱えていた両者は、まずMSモードにおける機能試験を優先させることで、スケジュールの圧迫を防ごうとしていた。それに並行して、非変形型のFA-010Bの主武装となる予定のハイパー・メガ・キャノンの搭載試験を行い、逆にMSZ-010のスペックをも検証していたのである。その結果、ZZガンダムは予想以上の性能を発揮した。そして「ZZガンダム」は、FA状態のままでも充分な性能を発揮することが証明された。さらにその結果を受け、いわゆるフルスペックの機体開発も加速されることとなつたのである。

## MAINTENANCE and MORE

宇宙世紀0089年2月16日、アクシズをめぐるハマーン艦隊とグレミー艦隊の戦闘は激戦を極めていた。アクシズに遺存されていた兵力を掌握したグレミー艦隊は攻勢を強めている。ネオ・ジオンの内蔵とも言えるこの戦闘への介入を決定したアーガマ艦隊だったが、量産型キュベレイの大空投入ヤブルツーの駆るクイン・マンサの出現など、圧倒的な火力の前に体勢の立て直しを迫られる。そのわずかな時間を利用して、アストナージを始めとするネエル・アーガマのメカニックたちは、メンテナンスと性能強化を同時に実行するため、かねてより調達していたバージを使い、ZZガンダムのフルアーマー化を敢行することにした。それは大きな危険でもあった……。



## FULL ARMOR ZZ GUNDAM MAXIMUM SPEED

クイン・マンサの驚異的な火力に対抗するために、可能な手段は全て講じなければならない。その解答がフルアーマーZZガンダムであった。ジュドーは「こんなゴテゴテしたもの……」と言いつつも、クルーの不屈不撃の努力に頼むため、再びアクシズへと向かう! その圧倒的な速撃性能は、既存のMSを全て凌駕するものであったといっても過言ではない。フルアーマー化されたZZガンダムは、まさに最強のMSとして生まれ変わったのだ。途中、ラカンの駆るドーベン・ウルフを撃倒したジュドーは、クイン・マンサを追ってアクシズへと突入する。果たして!



## WEAPONS



▲フルアーマードブルゼータMS時の全高よりも長いハイパー・メガ・キャノンをはじめ巨大な各武装をセット。

# PAINTING

よりリアルに仕上げたい場合は、下の基本色をご覧ください。  
塗装には、より安全な「水性清漆」のご使用をおすすめします。

本体、アーマー部などの塗装色。  
ホワイト(100%)+ブラック少量

腕、脚、アーマー部などの塗装色。  
インディブルー(100%)+レッド少量

つま先、バーニア内部の塗装色。  
モンザレッド(100%)

アンテナ・インティーカなどの塗装色。  
イエロー(70%)+オレンジイエロー(30%)

バックパックの塗装色。  
ミッドナイトブルー(50%)+グレー(30%)+レッド(10%)+ホワイト(10%)

キャノン砲の塗装色。  
ミッドナイトブルー(100%)+パープル少量

ベルト、キャノン砲ジョイント部の塗装色。  
黒鉄色(80%)+ブラック(40%)

## FRONT VIEW



## REAR VIEW



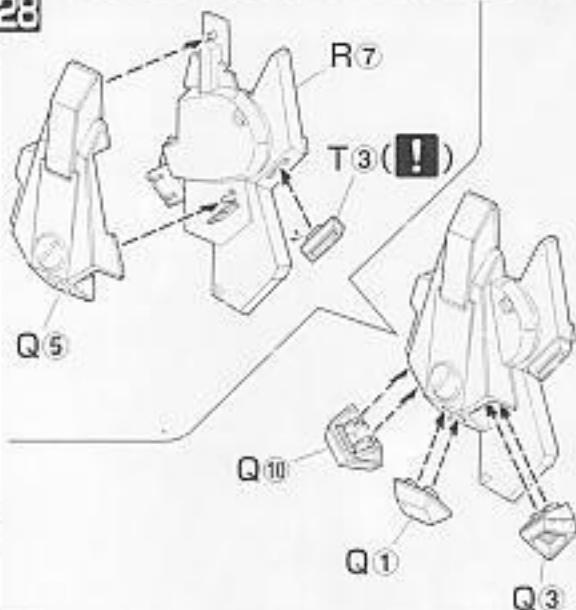
コア・ブロックへの  
変形ギミックを再  
現したコア・ファイ  
ターが1種装備。  
ランディング・ギア  
を装着可能。  
(※コア・ブロック  
は、変形ギミック  
付を含めて2セット  
あります。)



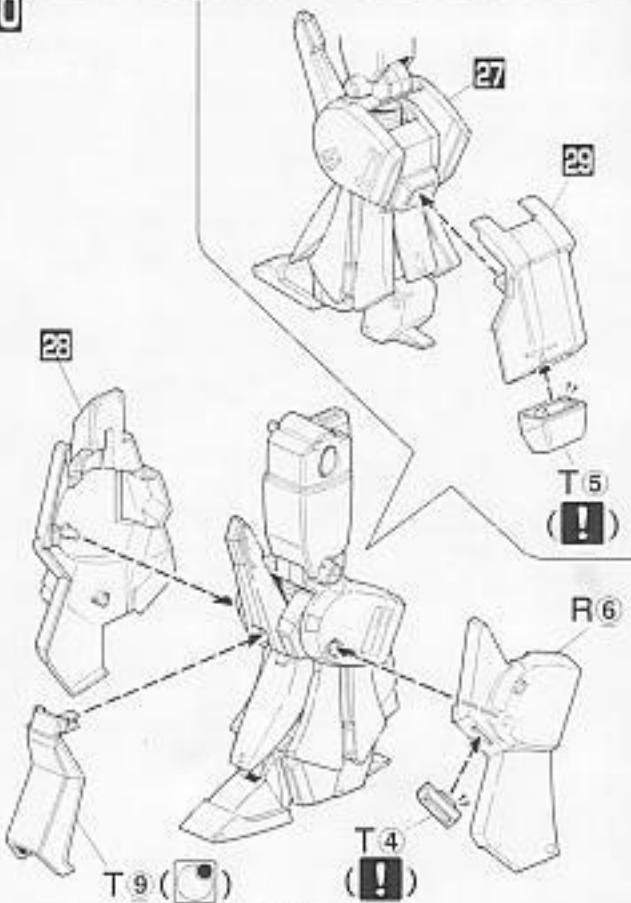
△新たに追加された増  
加装甲には、センサー等  
のディテールをはじめ、  
胸部カバー内にミサイ  
ルポッドを装備。

△左腕部に装着され  
る増加装甲には、ハッ  
チ開閉式のミサイル  
ポッドを再現。

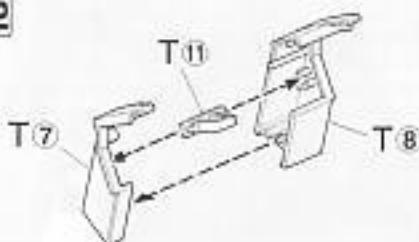
28



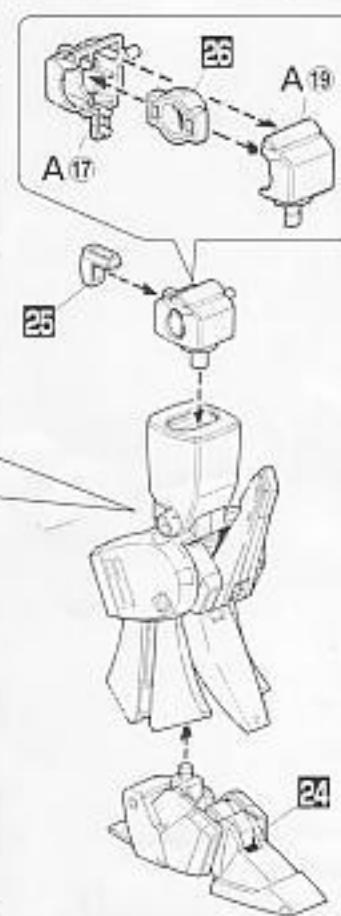
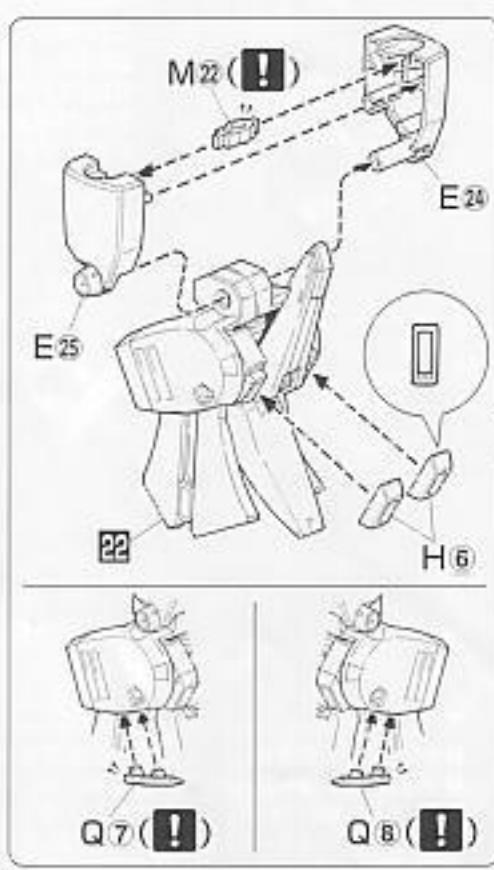
30



29 x2

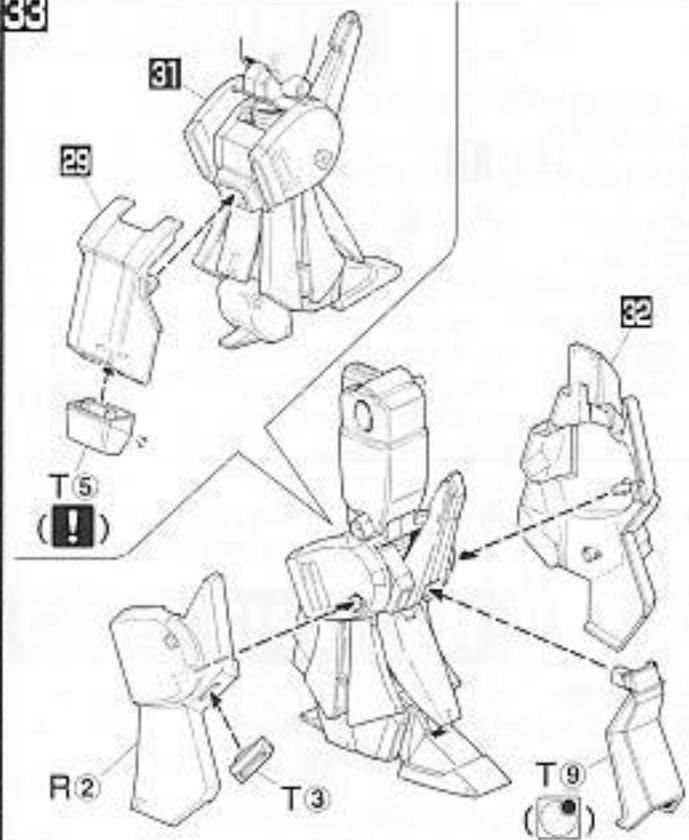


31

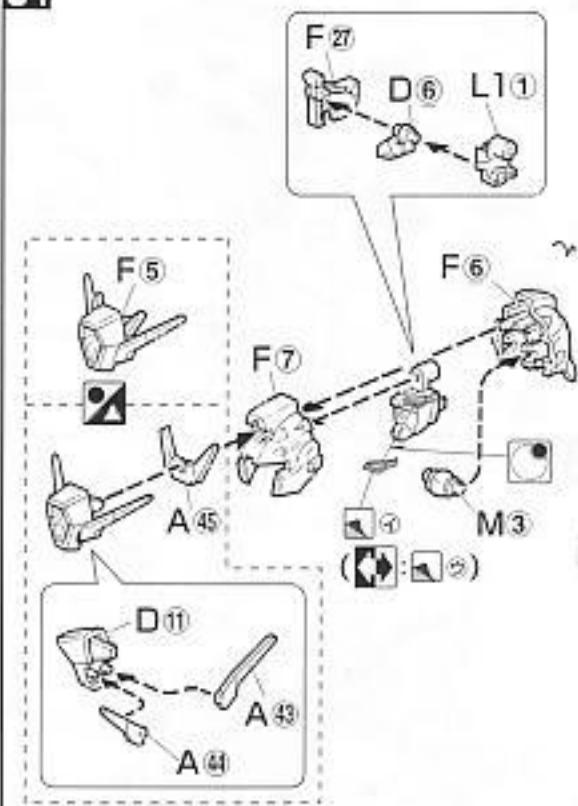


32

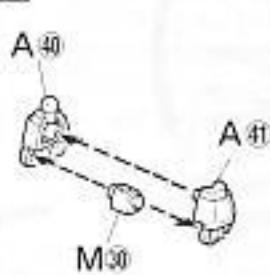
33



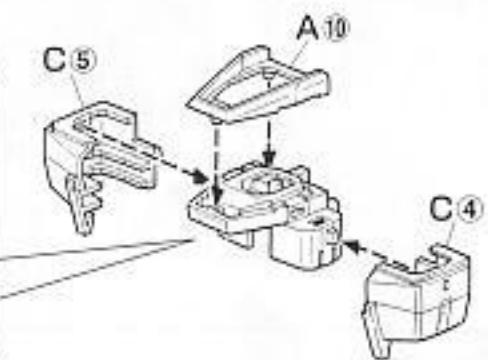
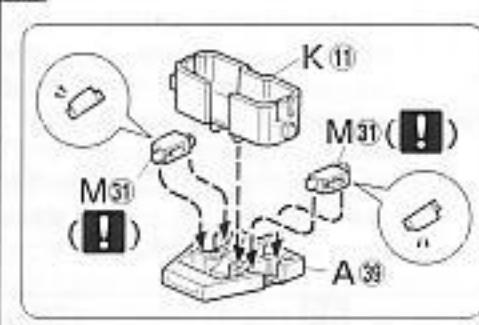
34



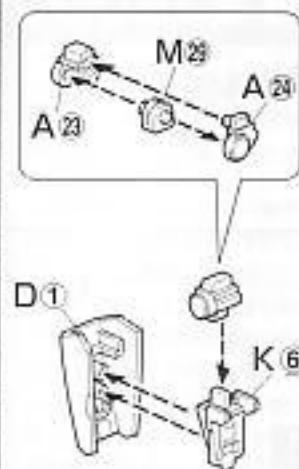
35



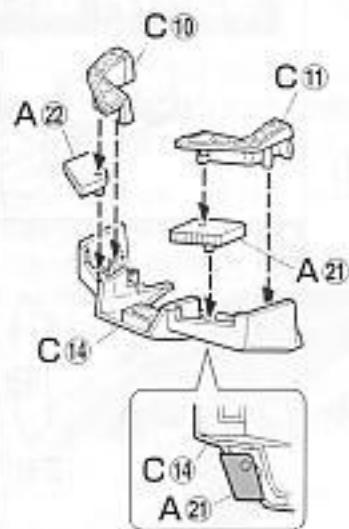
36



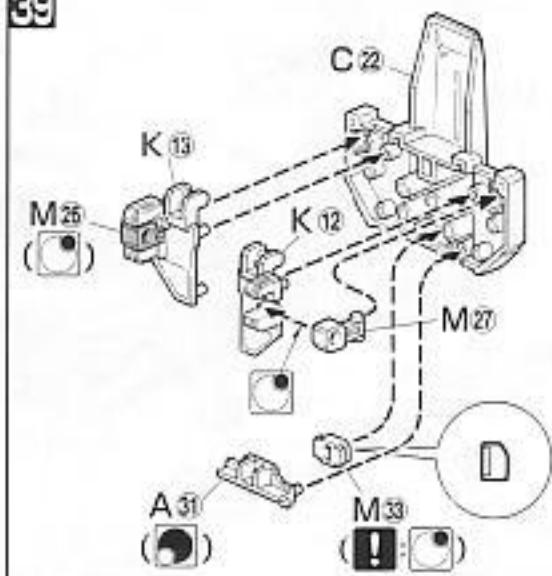
37

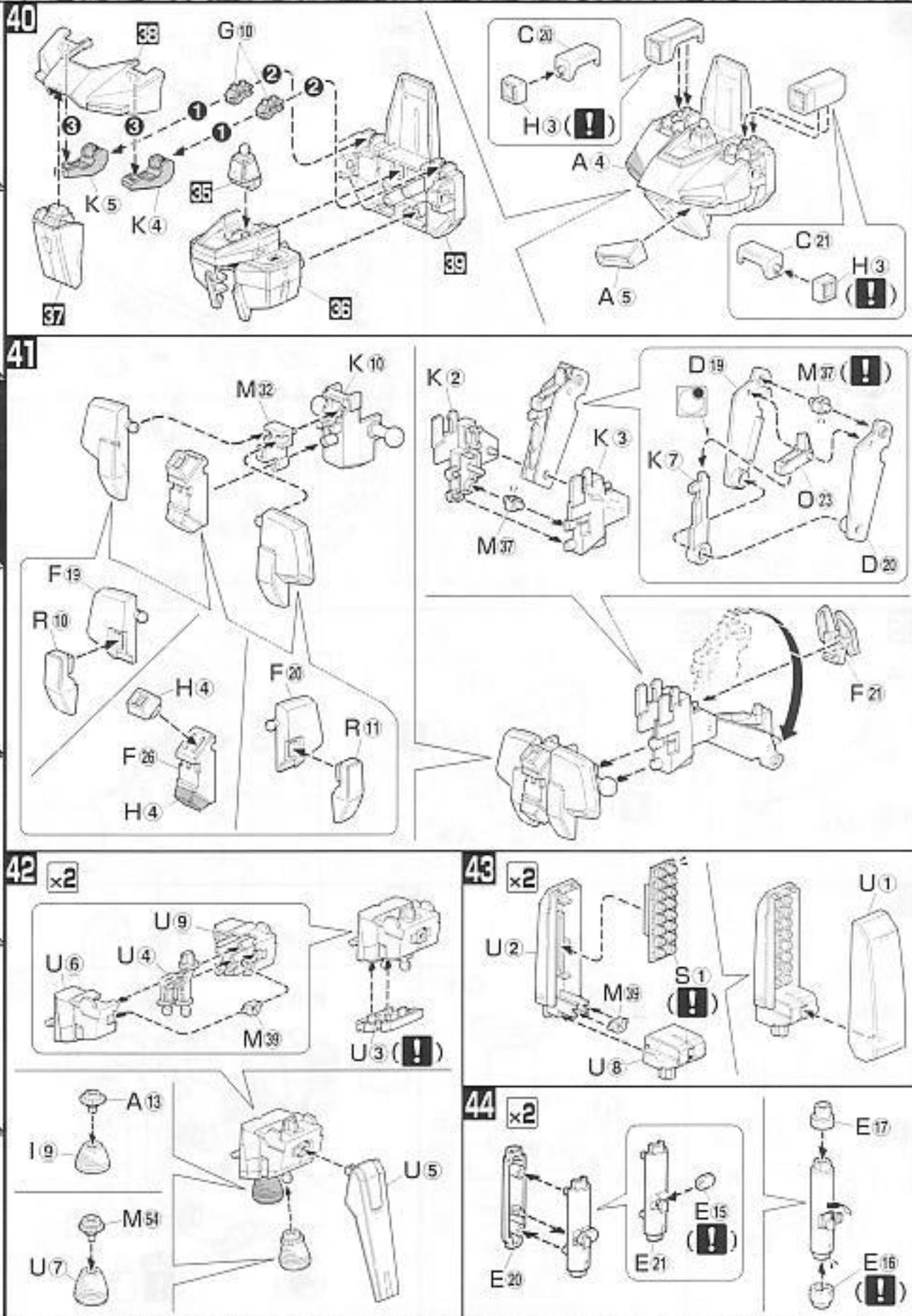


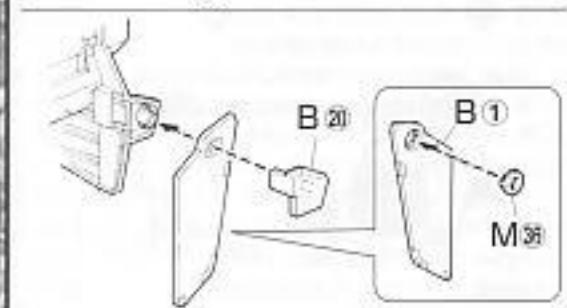
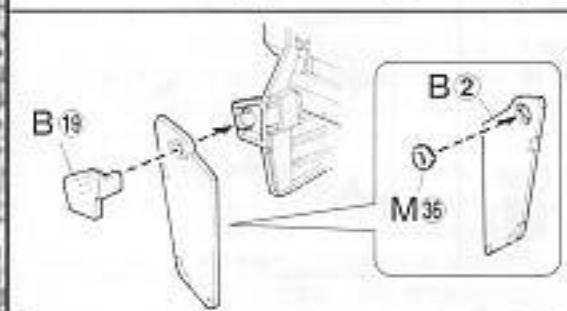
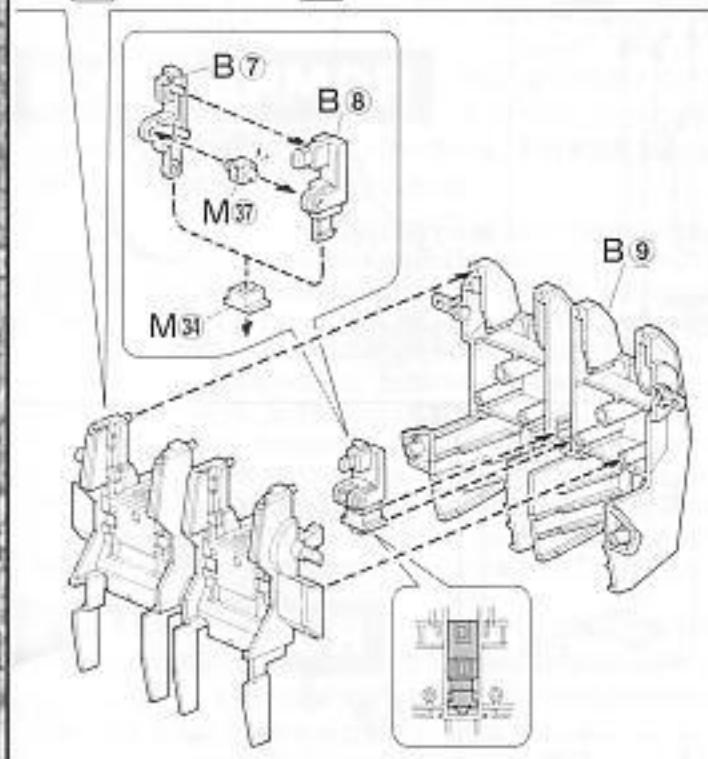
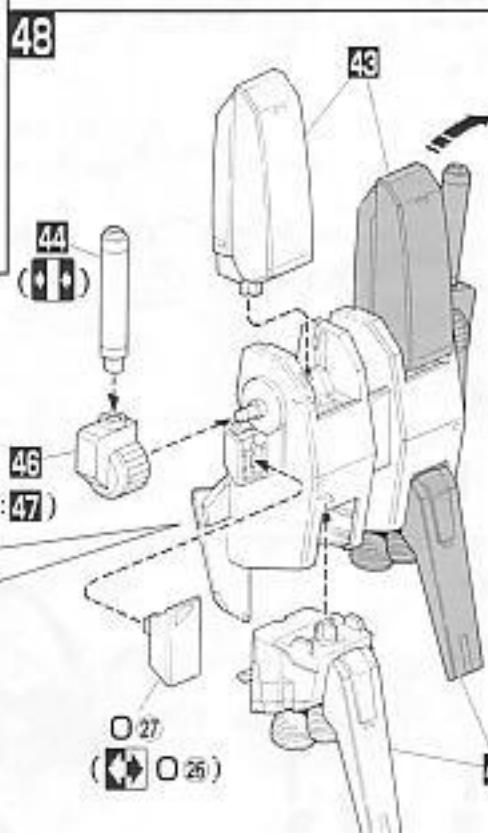
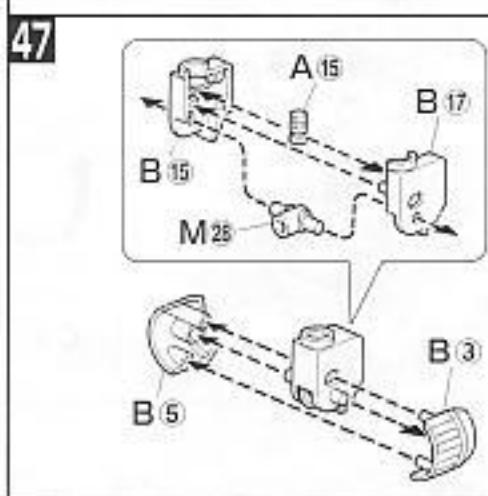
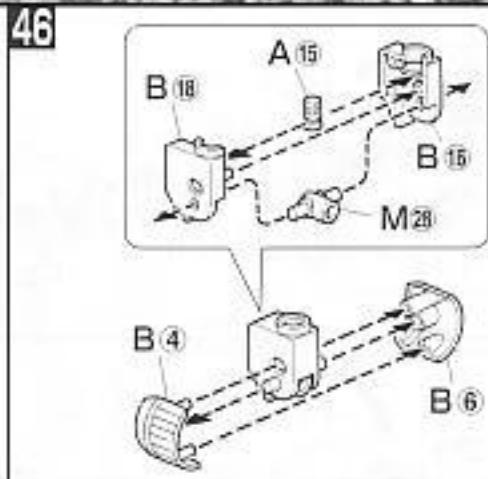
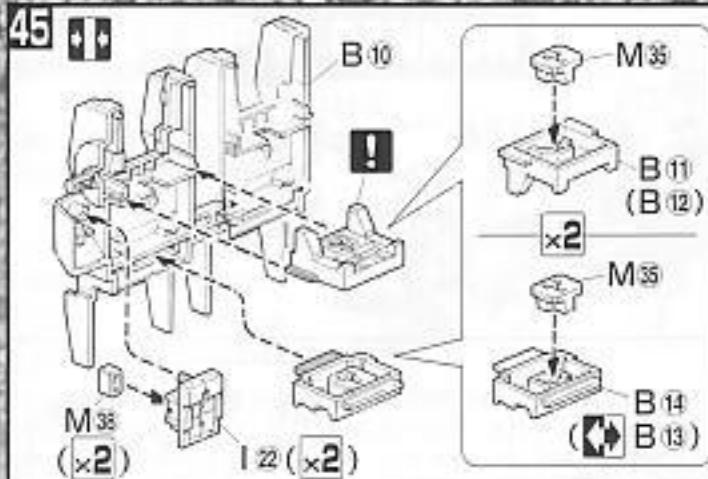
38



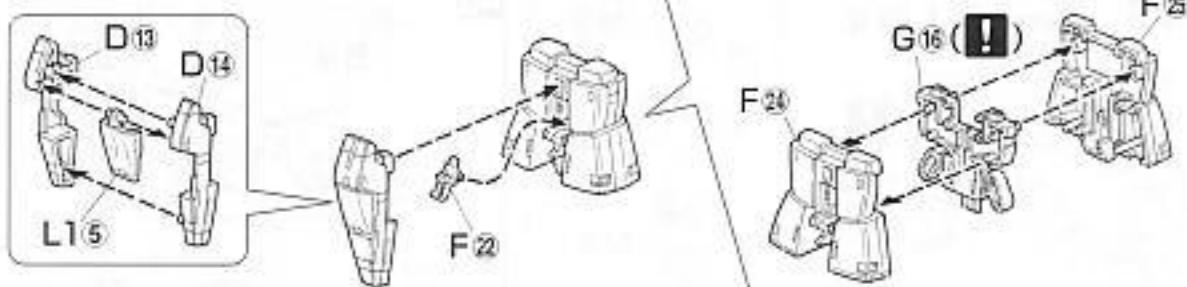
39



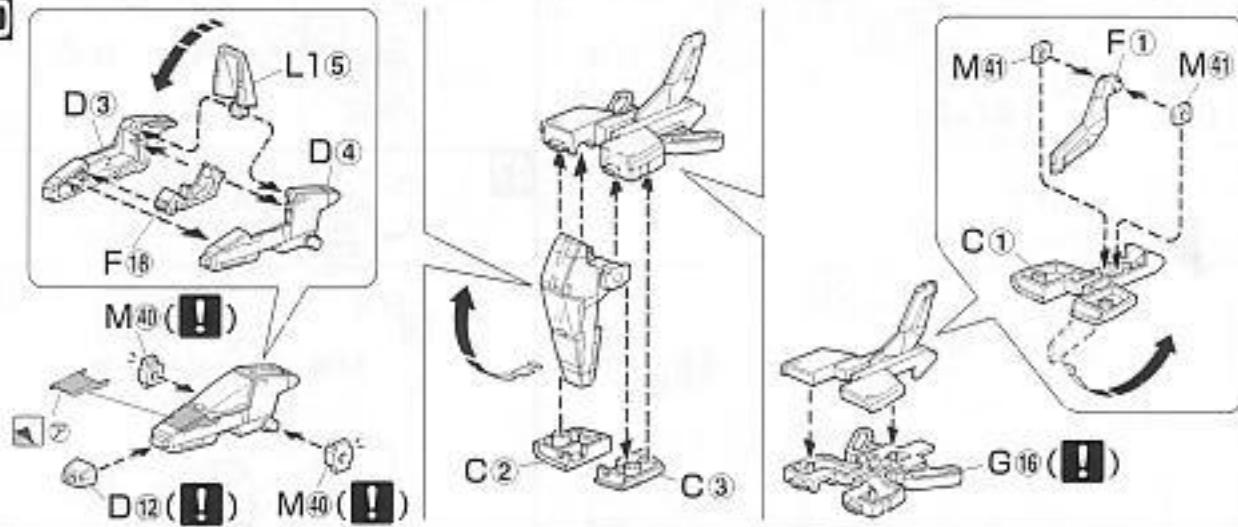




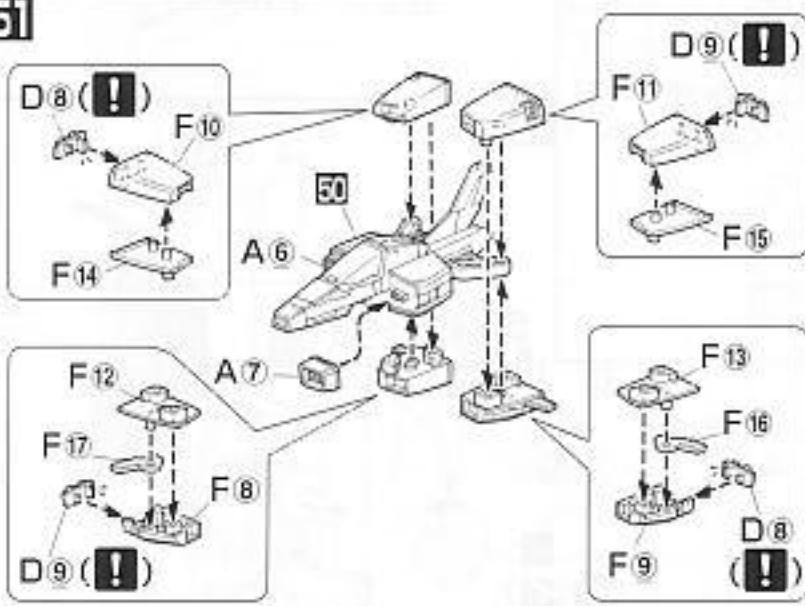
49



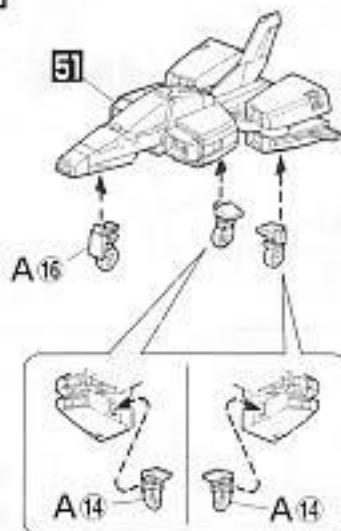
50



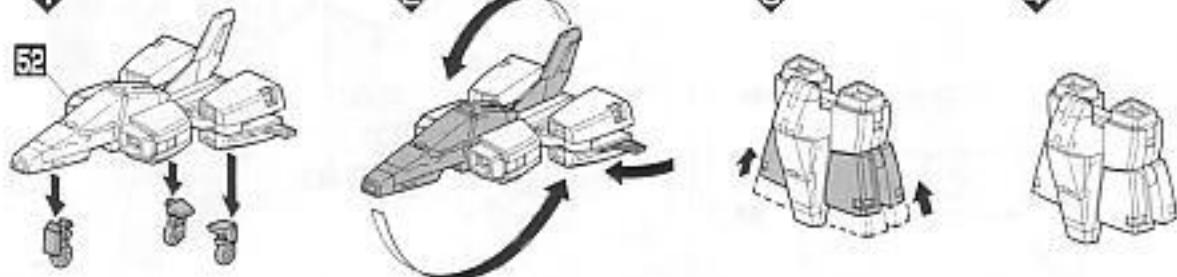
51



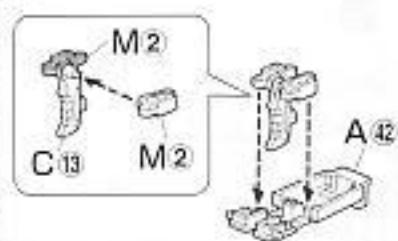
52



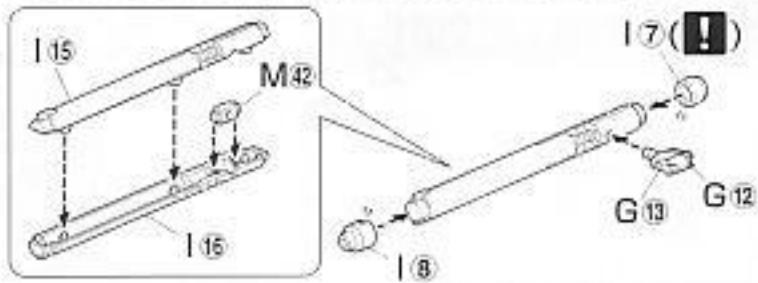
53



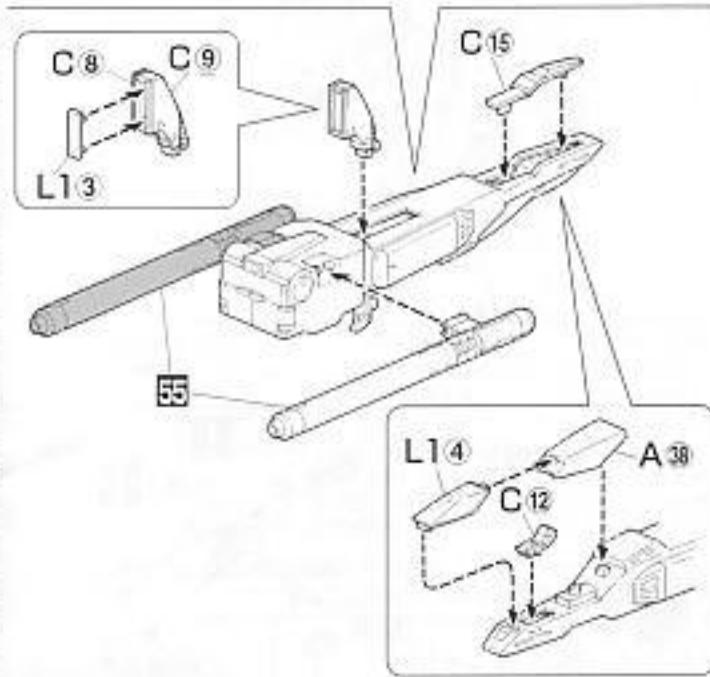
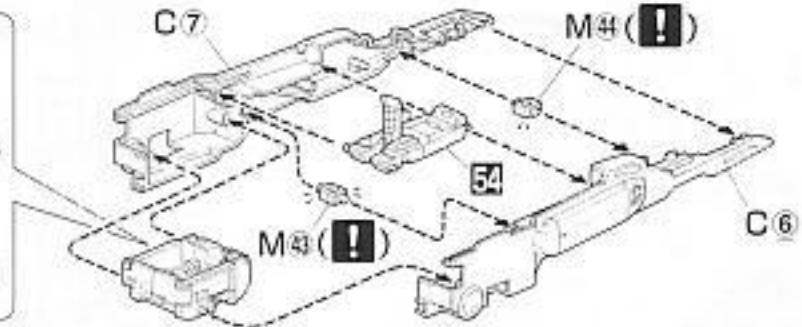
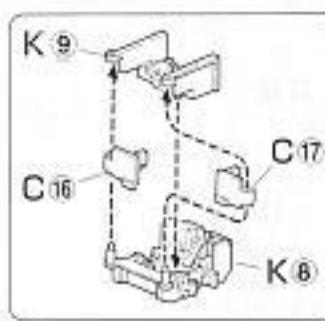
54



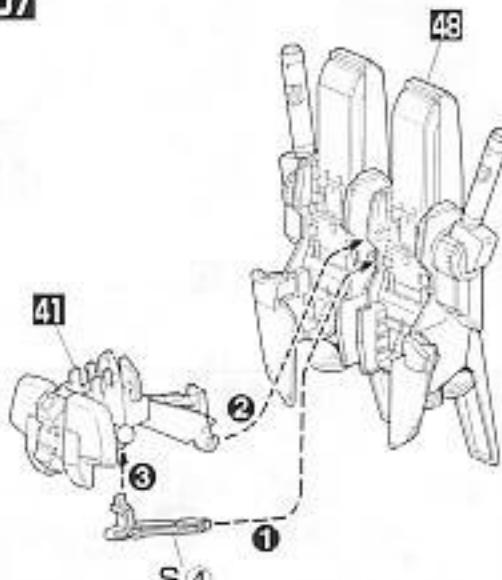
55



56



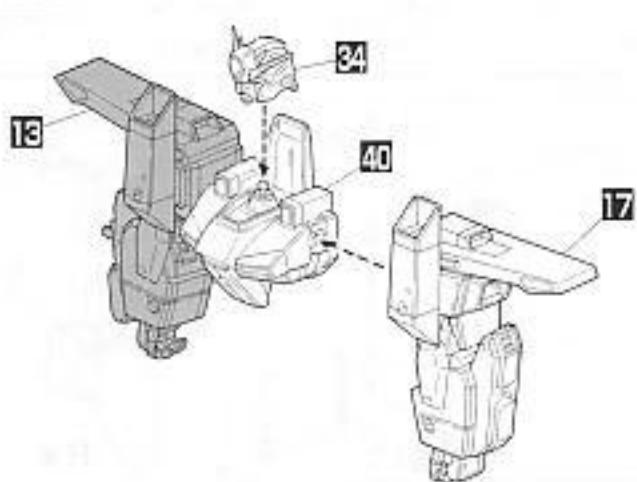
57



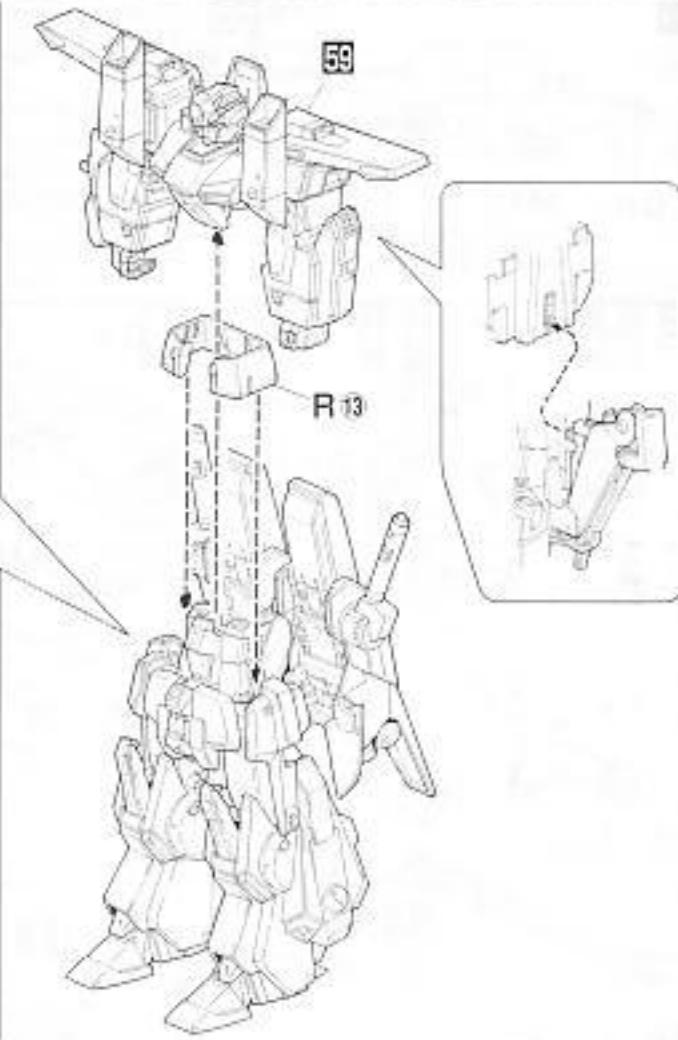
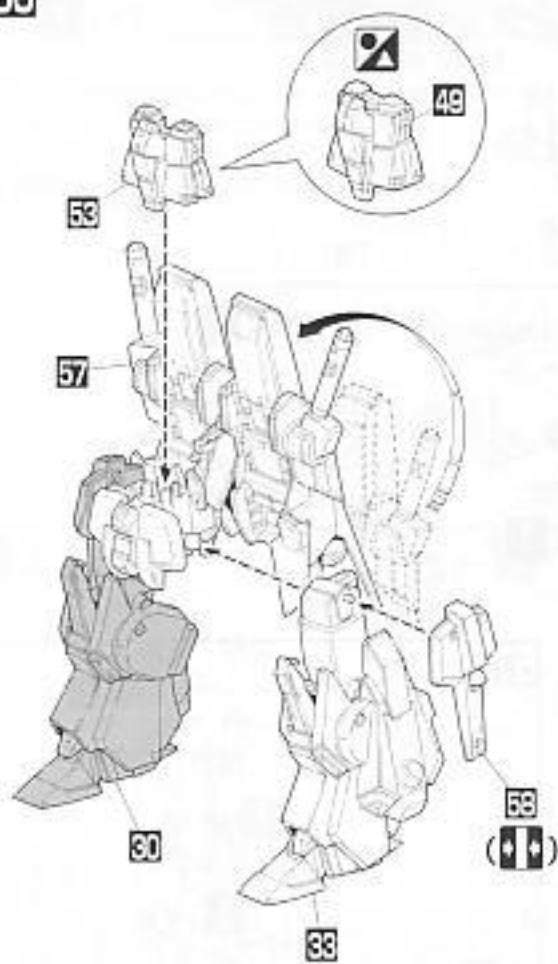
58 x2



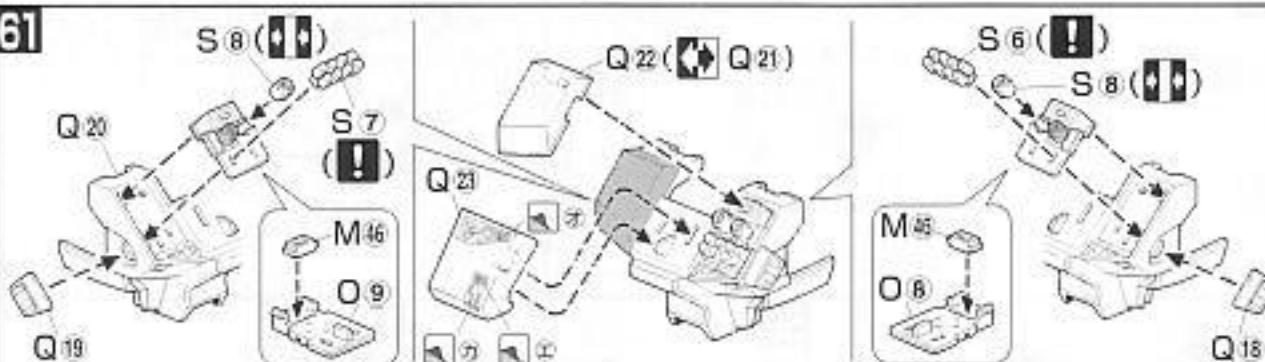
59



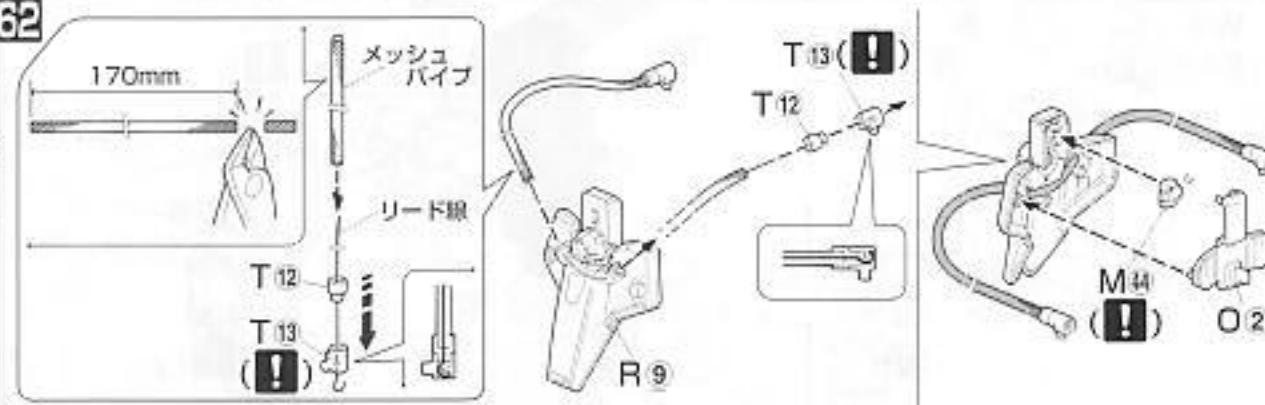
60



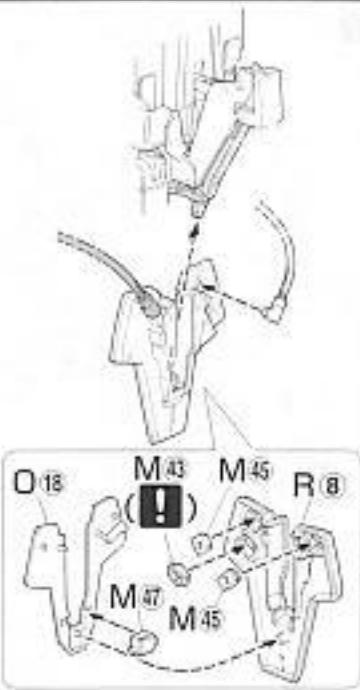
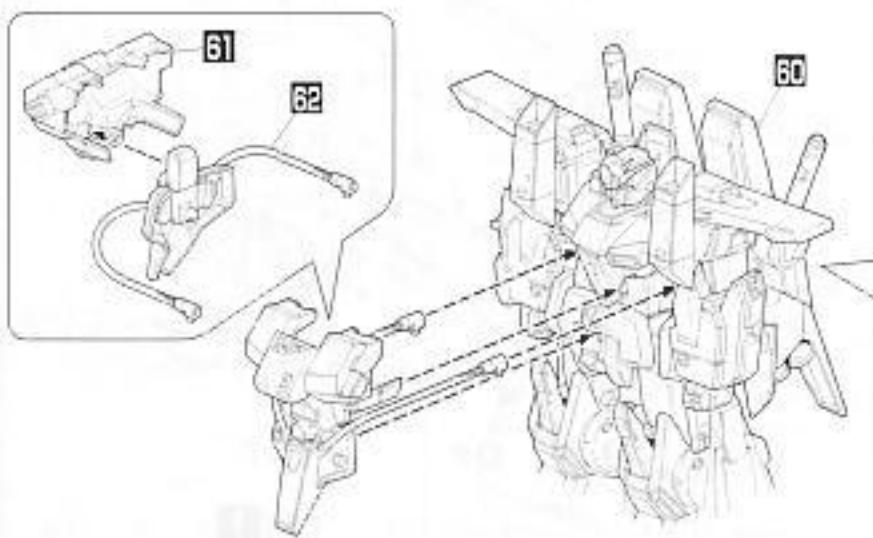
61



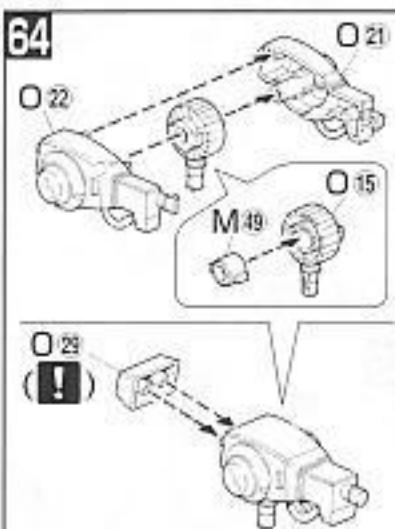
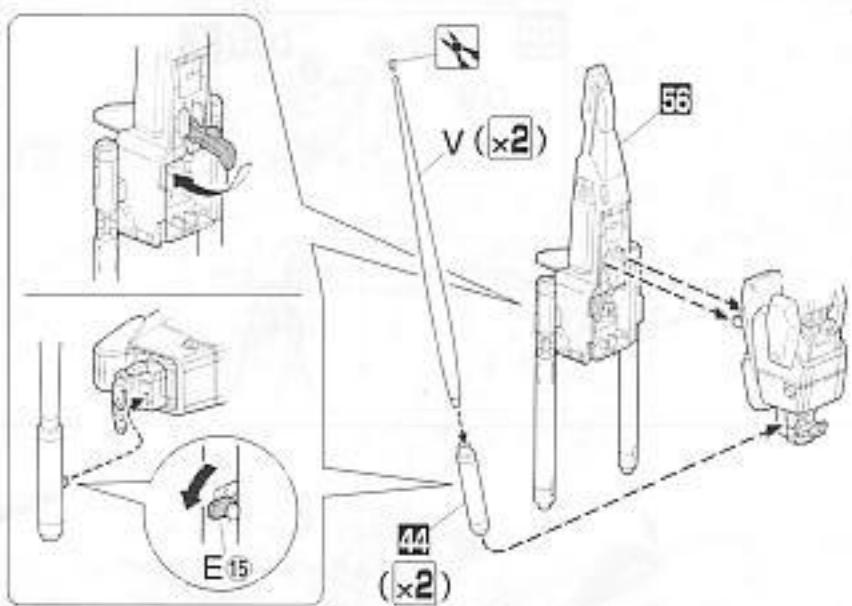
62



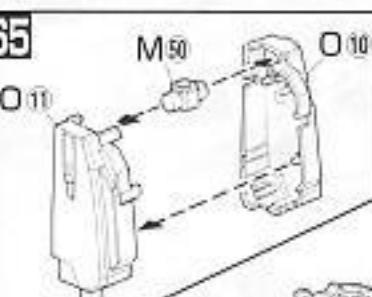
63



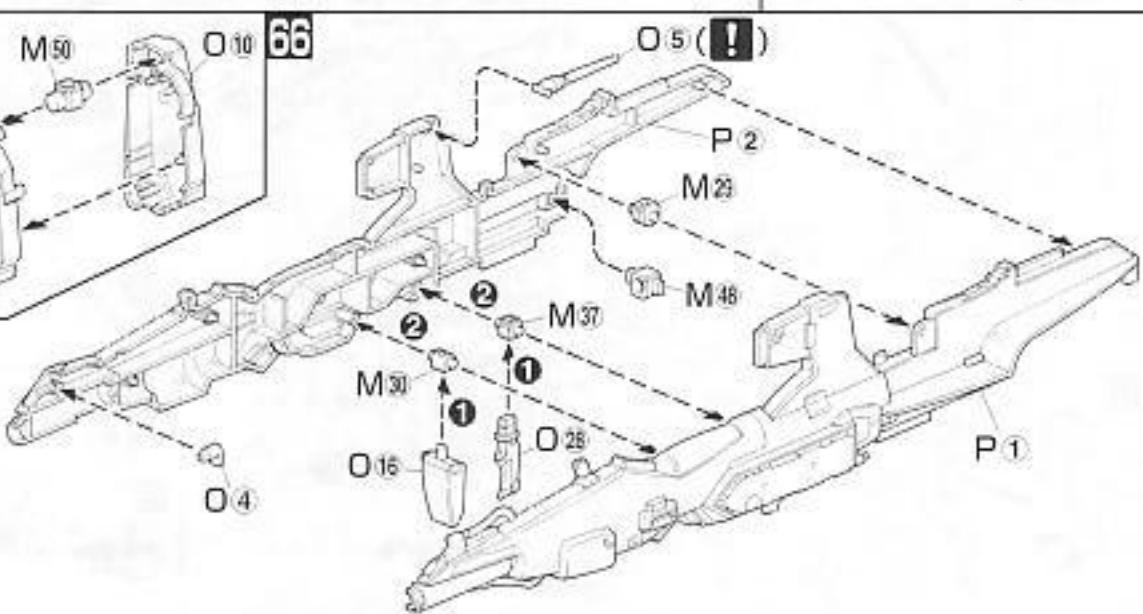
64

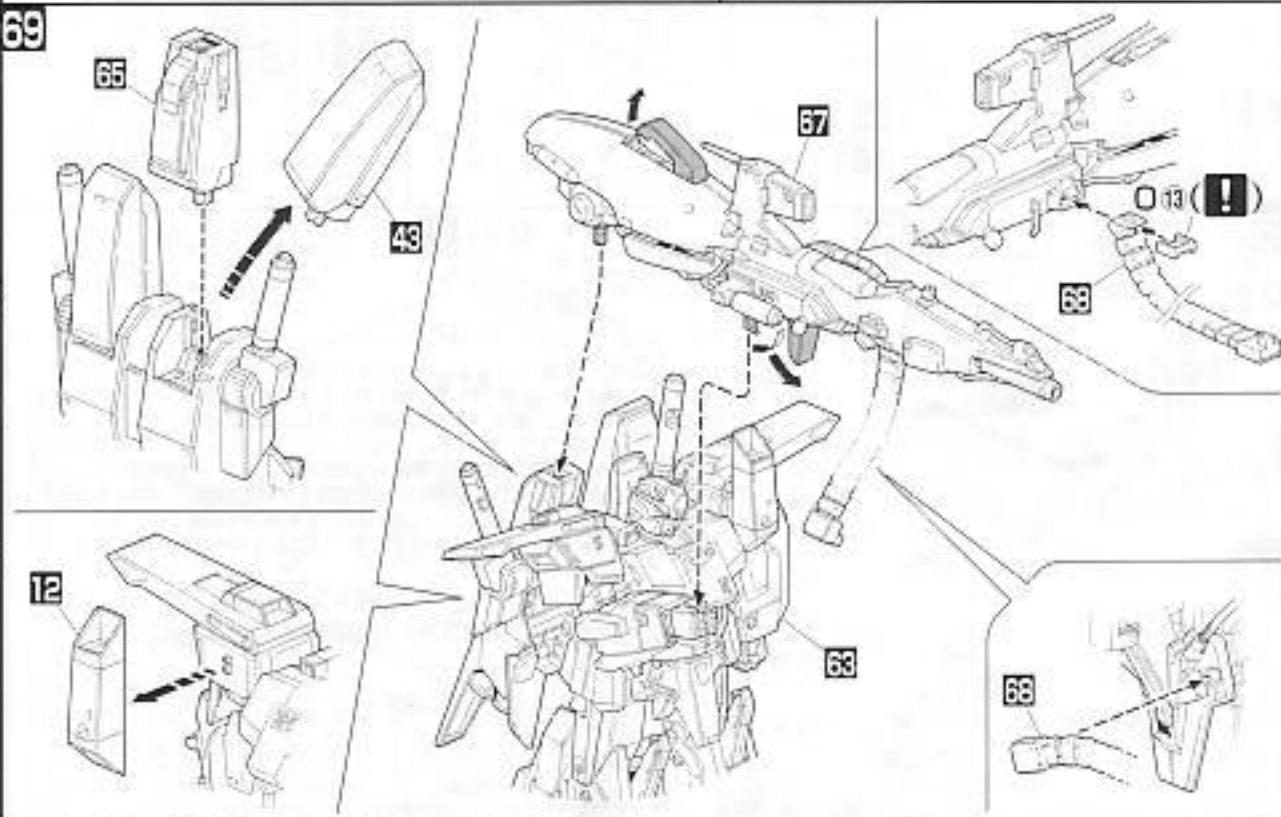
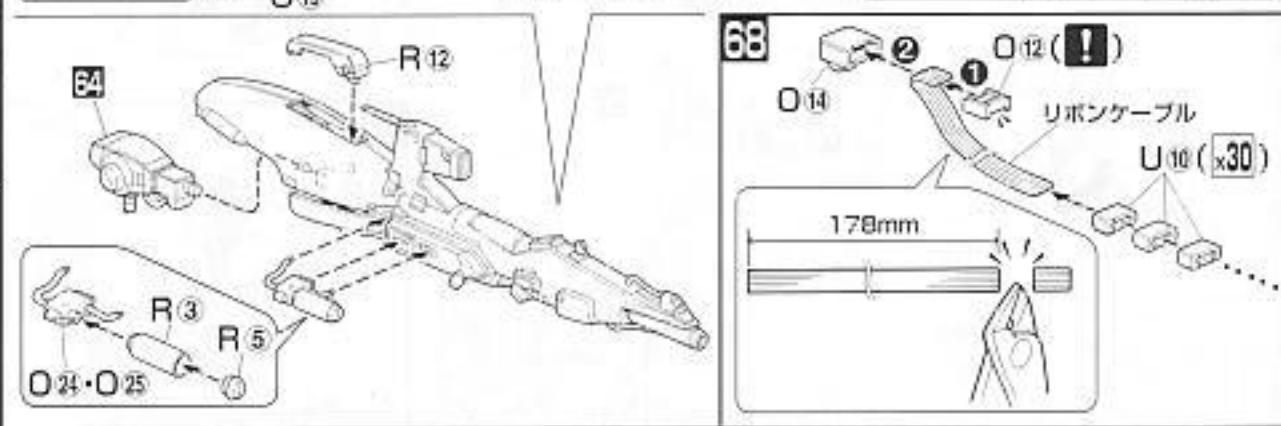
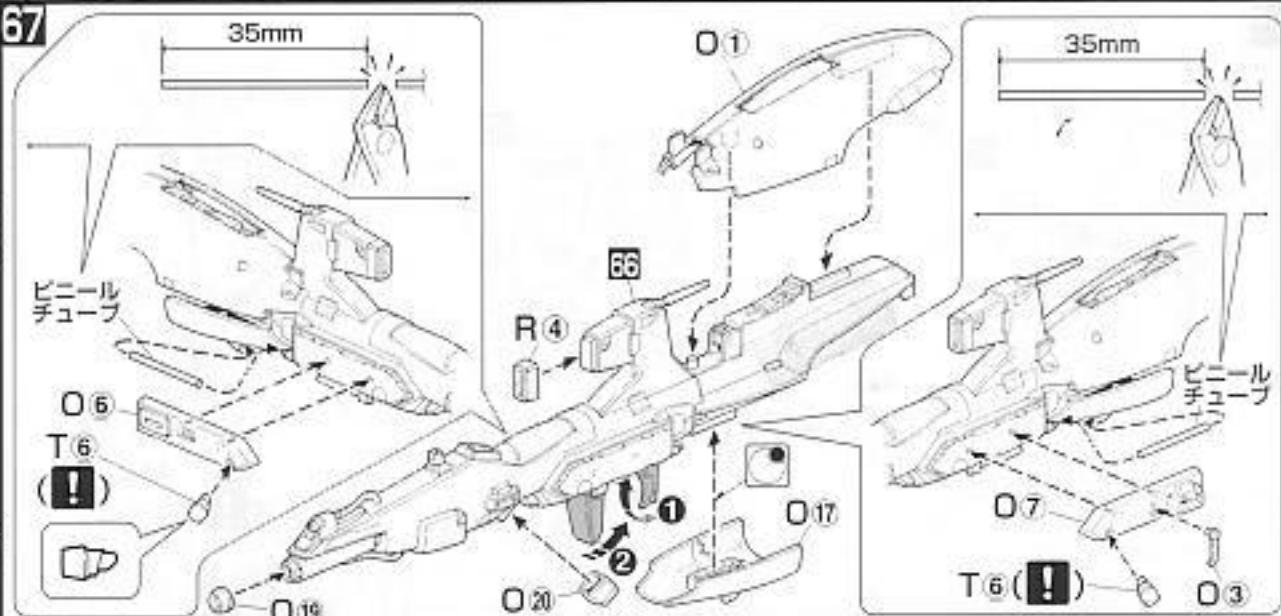


65



66





Seal  
(シール)

下の図を見て、ガンダムデカールやシールのはる位置を確認してください。

ガンダムデカールのはりかた。

1.転写するマークを大まかに切れます。

2.転写する場所に軽く押さえ、

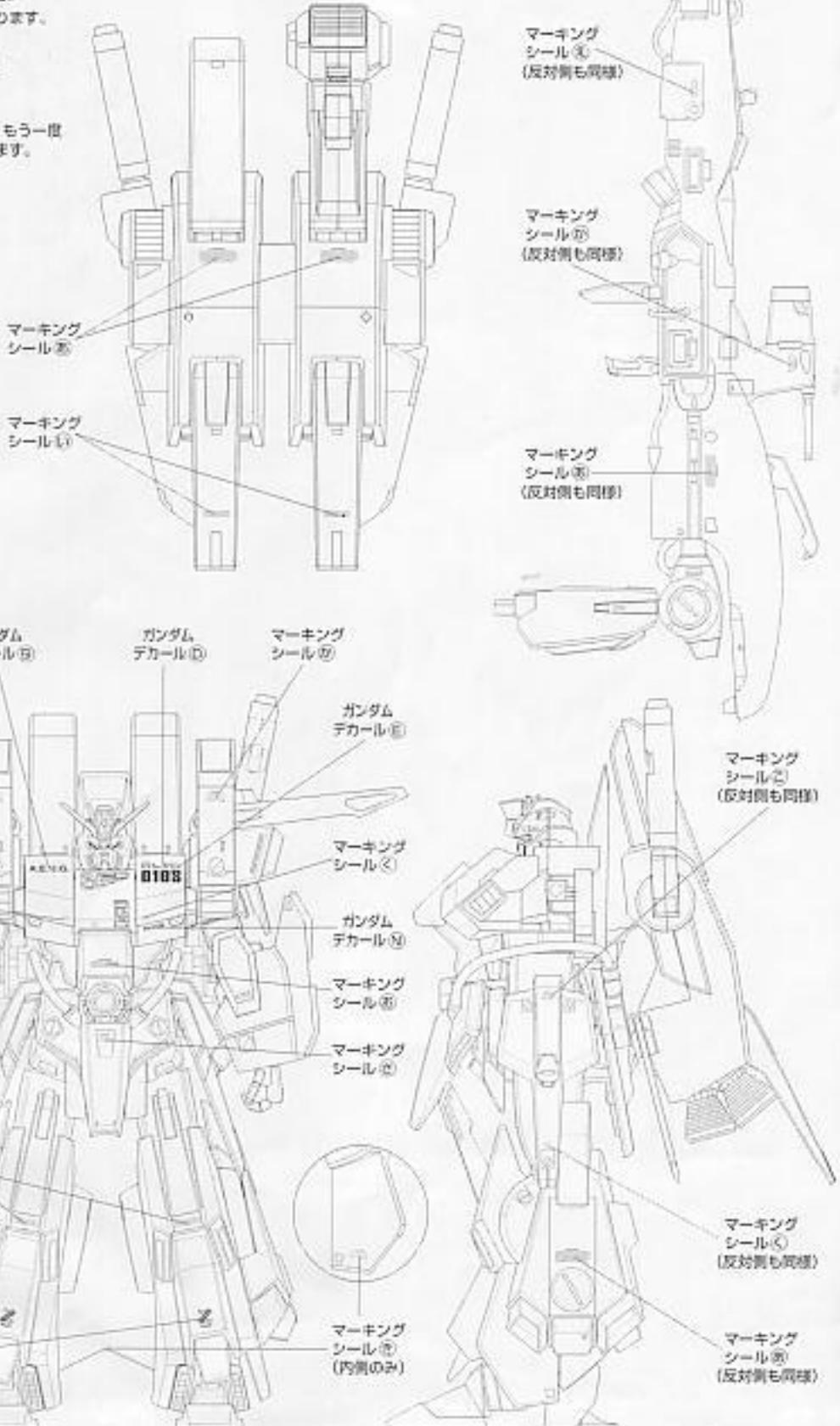
ボールペン等の先の丸い物で

上から軽くこすりつけます。

3.シート部分を静かにはがし、

転写していない部分があれば、もう一度

転写していない部分をこすります。



余ったマーキングシールやガンダムデカールは好きな所にはってください。



協力：ホビージャパン



反地球連邦政府組織（エウーゴ）  
可変分離型試作モビルスーツ  
FA-010S「フルアーマーダブルゼータガンダム」  
1/100 スケール マスターグレード

**FA-010S FULL ZZ GUNDAM**  
ARMOR PROTOTYPE TRANSFORMABLE MOBILE SUIT

Scanned by DaIong.net